

(報告事項)

第1440回経営委員会資料

2024年1月23日

視聴者対応報告（2023年10～12月）について

放送法第27条に定める視聴者対応の状況について、2023年10～12月分を別冊「視聴者対応報告（2023年10～12月）」のとおり取りまとめたので、放送法第39条の第4項の規定に基づき報告する。

(別冊)

視聴者対応報告

2023年10~12月

日本放送協会

<目次>

視聴者の意見・要望への対応状況	3
視聴者の声の内訳	3
放送・番組への声	4
誤記・誤読・間違い指摘への対応	4
インターネット業務への声	5
受信料への声	5
技術・受信相談への声	6
経営への声	6
意見・要望を受けての改善・対応事例	7

放送法第27条

協会は、その業務に関して申出のあった苦情その他の意見については、適切かつ迅速にこれを処理しなければならない。

放送法第39条 第4項

会長は、3箇月に1回以上、自己の職務の執行の状況並びに第27条の苦情その他の意見及びその処理の結果の概要を経営委員会に報告しなければならない。

視聴者の意見・要望への対応状況

10月から12月に寄せられた視聴者の声の総数は80万197件で、昨年度同期の73万4,360件に比べて6万件以上増加しました。これは主に、12月1日にスタートした「衛星波の再編」に対して、「個別番組の放送予定」や「4K番組の視聴方法」などの問い合わせが多く寄せられたことが影響しています。苦情を含めた「意見・要望」は12万3,855件でした。「意見・要望」の89.7%にあたる11万1,053件は、ふれあいセンターなどの一次窓口で対応を完了しました。残る1万2,802件は、本部や各放送局の担当部門などが視聴者への回答を作成し、二次対応を行いました。本部各部署や全国放送局に直接届いた意見・要望については、原則一次窓口で完了しています。

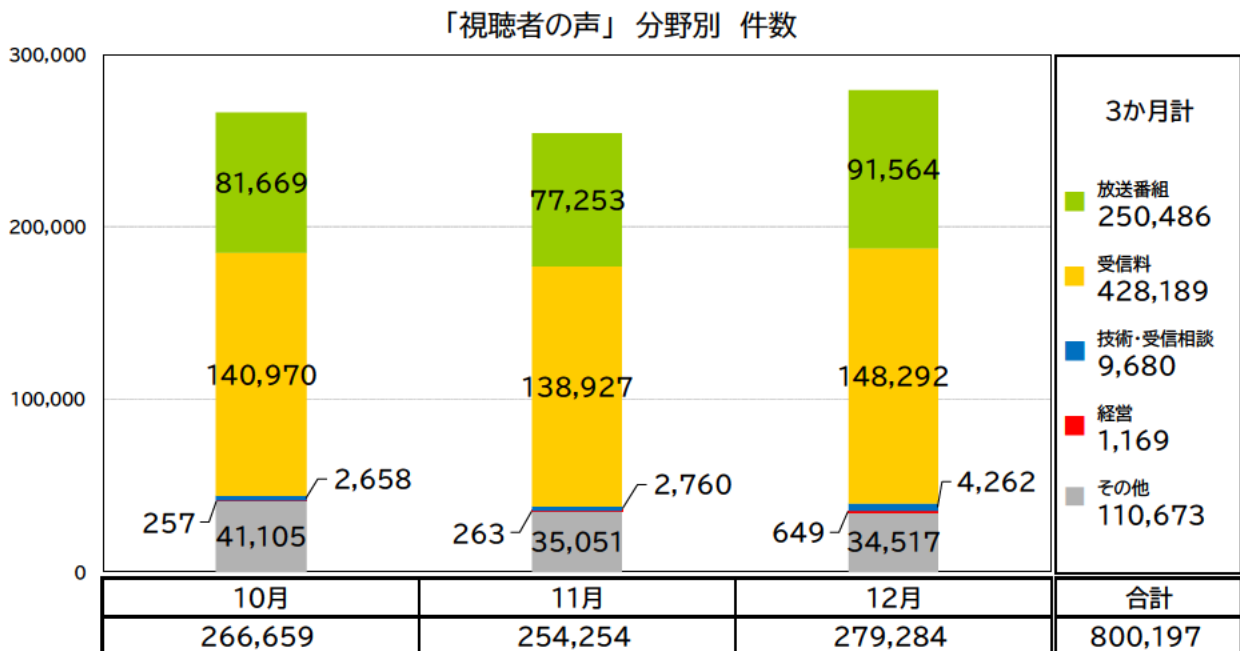
なお、衛星波の再編については、視聴者のみなさまからの問い合わせに丁寧に答えられるように、ふれあいセンター(放送・営業・受信技術)の態勢を強化して対応しました。

	受付数	意見・要望	問い合わせ	その他	一次窓口で対応完了	該当部局で二次対応
ふれあいセンター(放送)	232,947	58,280	101,902	72,765	50,857	7,423
ふれあいセンター(営業)	288,376	12,811	265,271	10,294	9,557	3,254
ふれあいセンター(受信相談)	9,873	5,526	2,615	1,732	3,401	2,125
本部各部署	51,255	40,065	9,924	1,266	40,065	
全国各放送局	217,746	7,173	185,957	24,616	7,173	
合計	800,197	123,855	565,669	110,673	111,053	12,802

※ハートプラザ(渋谷放送センター)の受付件数は、ふれあいセンター(放送)に含まれます。

視聴者の声の内訳

分野別の内訳をみると、最も多いのは「受信料」に関するもので、次いで「放送・番組」となっています。



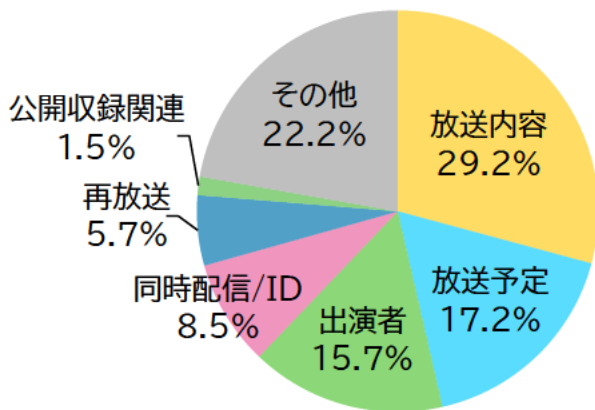
放送・番組への声

10月から12月に「放送・番組」に関して寄せられた「意見・要望」や「問い合わせ」は、25万486件(昨年度同期24万1,018件)でした。内訳は、「放送内容」に関するものが29%、「放送予定」が17%、「出演者」が16%などとなっています。

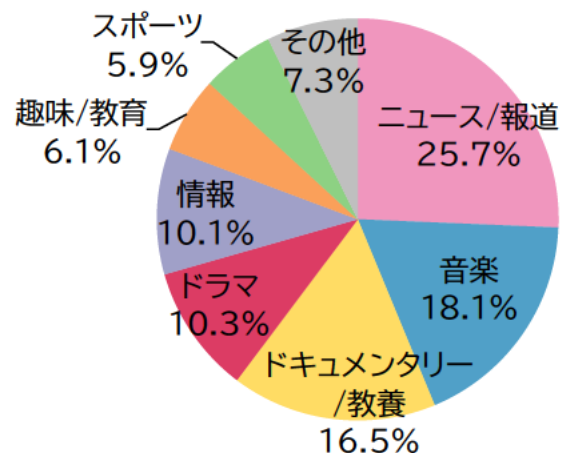
番組のジャンル別では、「ニュース/報道」が26%で最も多く、次に「音楽」が18%、「ドキュメンタリー/教養」「ドラマ」「情報」の順となっています。

また、声の内訳は、好評意見がおよそ3割、厳しい意見がおよそ7割でした。

【受付内容】



【受付番組ジャンル】



	10月	11月	12月	10月~12月平均	昨年度同期
好評意見	27.3%	34.7%	36.1%	32.5%	26.3%
厳しい意見	72.7%	65.3%	63.9%	67.5%	73.7%

誤記・誤読・間違い指摘への対応

厳しい意見の中には、表記の誤りや誤読などをご指摘いただいたものがあり、10月から12月までに放送関連が196件、ホームページ関連では123件ありました。

視聴者からの指摘については、直ちに番組担当者に連絡し、修正するなどの対応をとったほか、番組の責任者らが出席する各種会議などでも情報を共有し、注意を促しました。

インターネット業務への声

インターネット業務には、10月から12月までに4万7,946件の問い合わせや意見が寄せられました。最も多かったのは「NHKプラス」に関するもので4万1,992件と全体の88%を占めました。登録や視聴方法については、放送やホームページをはじめ、ふれあいセンターの窓口でも丁寧に説明し、「使い方が分かって、ドラマなど幅広く見るようになった」といった好評意見が寄せられました。また、大みそかのNHK紅白歌合戦でNHKプラスのPRをしたあとは、アクセスが集中したため、「つながらない」という声が多く寄せられました。今回のことを教訓に、サーバーの増強など、対応策を検討して参ります。

また、NHKを名乗る架空の発信元からのメールやダイレクトメッセージについての問い合わせや相談は446件でした。引き続き、番組やホームページなどで注意を呼びかけています。

受付内容	件数
NHKプラス	41,992
ホームページ	2,173
動画音声配信(語学番組など)	1,368
らじる★らじる	606
NHKオンデマンド	488
モバイル機器の操作	454
その他	865
合計	47,946

受信料への声

ふれあいセンター(営業)で受け付けた「意見・要望」は、1万2,811件(昨年度同期9,847件)。最も多いのは、受信契約の手続き・案内に関する送付物に関するもので1万577件でした。

10月から施行された「受信料の値下げ」と「学生を対象とする受信料免除の拡大」に関しては、放送・ウェブサイト・SNS・ダイレクトメッセージなどさまざまな方法でお知らせしました。また、受信料の手続きを身近に感じてもらえるよう、データ放送(総合テレビ)内の画面にある「受信料の窓口」を案内するページを刷新するなど、環境整備にも取り組んでいます。

	事由	件数
送付物	受信契約の手続き・案内に関する送付物について	10,057
	受信料の支払いに関する送付物について	494
諸手続き	契約に関する事務手続きについて	776
	ウェブサイト「受信料の窓口」について	170
スタッフ関係	訪問員の対応・訪問日・訪問時間等について	192
CASメッセージ	BSデジタル放送のメッセージ消去等について	185
受信料制度	受信料制度・不公平感・料金体系について	169
番組サービス	番組内容や出演者について	75
	インターネットサービスについて	31
その他		662
	合計	12,811

技術・受信相談への声

10月から12月までに、ふれあいセンター(受信相談)と各放送局で受け付けた意見や問い合わせは8,186件で、内訳は、受信不良の申し出が5,526件、受信方法やテレビのリモコンの操作方法などの技術相談は2,660件です。受信不良の申し出については、一次窓口で対応を完了したのが3,401件(61.5%)で、残る2,125件(38.5%)は訪問による二次対応で直接、改善の指導や助言を行いました。

事由		件数
受信不良		5,526
	一次対応	3,401
	個別受信設備不良	2,787
	共同受信設備不良	493
	雑音障害	71
	建造物による受信障害	25
	混信・難視聴など	25
	二次対応	2,125
技術相談(受信方法などへの問い合わせ)		2,660
合計		8,186

経営への声

10月から12月までに、NHKの経営に関して、ふれあいセンター(放送)で受け付けた意見・問い合わせは992件。およそ半数が、「衛星波の再編」をきっかけとした、受信料額や受信料制度に対する意見でした。次いで、報道局の記者が不正な経費請求をしていた問題について、138件の厳しい声が寄せられました。

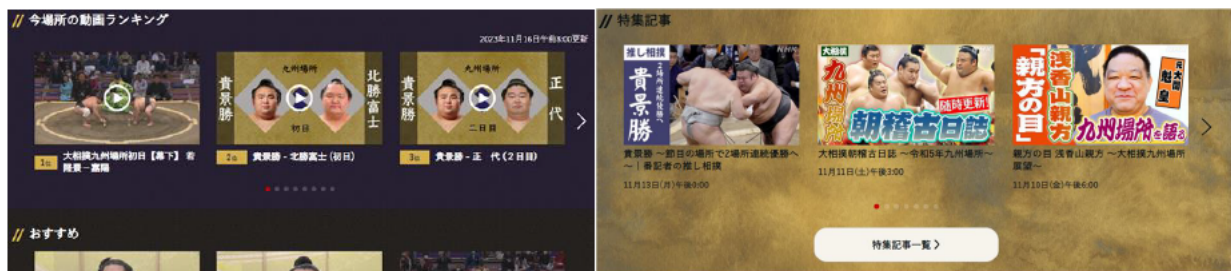
受付内容	件数
衛星波の再編	494
報道局記者 不正な経費請求	138
NHK経営計画	68
旧ジャニーズ事務所 性加害問題	59
受信料・受信料制度	39
その他	194
合計	992

意見・要望を受けての改善・対応事例

■大相撲ファン納得の放送・サービスを目指して

NHKでは、70年あまりに渡って、大相撲の場所を生中継でお伝えしています。毎回、大相撲ファンから寄せられるさまざまなご意見やご要望を参考にしながら、制作担当者は、さらに分かりやすく大相撲の魅力を伝えようと、場所ごとに検討し、改善を重ねています。

その一つが、スマートフォンやパソコンなどで見られる「大相撲特設サイト」。「もう一度、あの取組を見たい」「郷土力士の結果を知りたい」などの声に応じて、このサイトでは、場所中いつでも十両・幕内の全取組を動画で視聴できるほか、取組結果や特集記事を読むことができます。



大相撲特設サイト

特設サイトを開設した後も、大相撲ファンからは、さらに取組を楽しめるよう、工夫して欲しいという要望が寄せられました。

- ・ 勝敗や決まり手などの結果を知らずに楽しみにして動画を見たいので、この操作がページのトップにあるとありがたい。(30代男性)

そこで導入したのが、動画のページが表示される前に、勝敗を「表示する」か「表示しない」かを選択できる仕組みです。こうした改善を重ねたこともあり、多くの方に大相撲取組動画をご利用いただいています。



動画を見る前に勝敗を知りたいですか？

はい

いいえ

この設定は、ページ上でいつでも切り替えることができます。

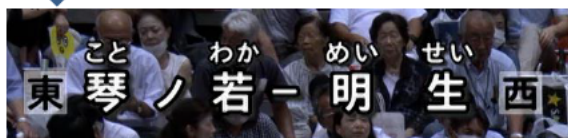
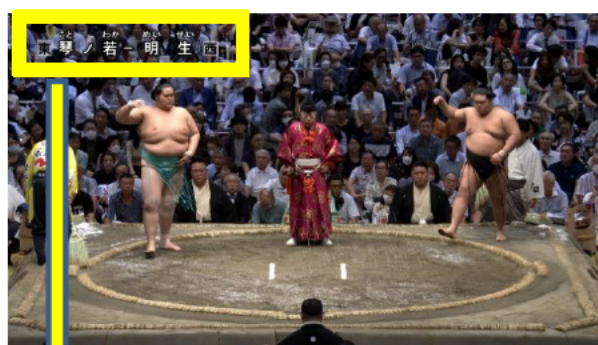
特設サイトを開くと、勝敗を知りたいかどうかの選択ボタンが表示される

さらに2023年の初場所からは、大相撲ファンから数多く寄せられる、「文字情報への要望」についても改善しています。

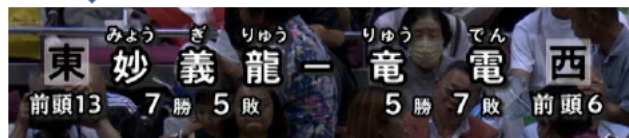
【視聴者から寄せられた声】

- ・ 行司軍配が返るまでの間、それぞれのしこ名の下に、小結などの「番付」と3勝1敗などの「前日までの勝敗数」を表示してもらえないか。(70歳以上男性)
- ・ テレビ画面の左上に東・西の力士のしこ名の字幕がありますが、「東□□(○勝○敗)ー(○勝○敗)□□西」という表示をしてほしい。(30代男性)

勝敗数については、これまでも力士が土俵にあがる場面で表示していましたが、ことしの初場所から新たに表示を増やしました。勝敗が翌場所の番付に大きく影響する13日目以降の十両・幕内の取組で、勝敗数の表示を画面の左上に出し続けるようにしたのです。



勝敗表示なし



勝敗表示あり

初場所中継の後、視聴者のみなさまからいただいた反響です。

- ・ 画面左上のテロップに「東西」および「しこ名とふりがな」に加えて、「番付」と「前日までの勝敗数」の表示についても、早速対応してもらいありがとうございます。これからも大相撲の放送を楽しみしている。(70歳以上男性)
- ・ しこ名の下に前頭何枚目とか、何勝何敗かを載せてほしいと前に頼んだことがある。その表示がされるようになり本当によかった。(70歳以上男性)

これからも、多くの方に大相撲の魅力を楽しんでいただける放送・サービスを目指して、場所ごとに検討と改善を進めていきます。

NHKスポーツ 相撲
大相撲取組動画

<https://www3.nhk.or.jp/sports/sumo/>

<https://www3.nhk.or.jp/sports/special/sumomovies/>

■「訪問学習」再開！ ～子どもたちに豊かな体験を～

11月、東京・渋谷のNHK放送センターでは、新型コロナウイルスの影響で中止していた「訪問学習」を3年9か月ぶりに再開しました。訪問学習は、全国の中学生・高校生を対象に、番組で実際に使われているスタジオでリハーサルなど番組制作の現場を見て、仕事や働くことについて学んでもらうキャリア教育の支援策の一つです。コロナ禍前には年間、1,800人を超える生徒が参加していました。全国各地の学校からは、休止期間中も、「テレビ局の仕事について、子どもたちが直接学ぶ機会を作ってほしい」「修学旅行の思い出に、制作現場を見学させてほしい」といったご意見をいただきました。そこで今回、再開するにあたって力を入れたのが「多彩な見学メニュー」と「リアルな体験」です。

再開後、早速、申し込んでくれたのは、沖縄県的那覇商業高校と、茨城県の土浦第一高校のみなさん。90分ほどかけて、総合テレビ「あさイチ」や「明日をまもるナビ」などの制作現場を見学。番組がどのように制作されているのか、担当者の解説を聞きながら、出演者の代役を務めるなど、リハーサルを実体験しました。この他にも、全国向けのラジオニュースを生放送している様子を間近で見学してもらいました。



防災情報番組「明日をまもるナビ」のリハーサルを見学



チコちゃんと記念撮影

【参加した生徒の声】

- ・ 見るだけだと思っていたのに、カメラの前に立ててうれしかった。
- ・ 全国に向けての生放送の場面を見ることができて感激した。

さらに、特別支援学校の先生や関係者などからは、「ぜひ障害のある子どもたちも参加できるようにしてほしい」という声が寄せられてきました。

【視聴者から寄せられた声】

- ・ 特別支援学校の生徒20名ほどで団体見学はできますか？(30代女性)
- ・ 社会福祉法人で障害のある子どもたちが通う事業所をやっているのですが、NHKの見学は行っていますか？(40代男性)
- ・ 高等特別支援学校ですが、校外学習でNHKを見学したいのですが大丈夫でしょうか？(40代男性)

こうした声に応えて、障害のある児童・生徒のみなさんを積極的に受け入れているのがNHK札幌放送局です。障害のある子どもたちの社会見学を受け入れてくれる施設が少ない、という相談が寄せられていることをきっかけに、2023年1月から本格的に取り組みを進めています。大切にしているのは、それぞれの障害や希望に合わせたプログラムを準備することです。事前に学校の先生や引率担当者と打ち合わせや下見を行い、見学ルートでの安全確認をはじめ、障害に応じて配慮すべきことや、子どもたちに楽しんでもらえるポイントなどをすり合わせています。

例えば、聴覚に障害がある子どもたちが訪れた時は、手話通訳を介して説明するため、見学時間を1.5倍に延長しました。また、通常はスタジオの照明を暗くして映像を上映しますが、この時は、手話通訳者が見えるよう、一部、照明をつけたままにするなどの工夫をしました。



手話通訳者による説明



札幌局のスタジオ見学

また、視覚に障害のある高校生が訪れた際は、番組制作や技術などの職員を交えて見学内容を検討し、スタジオセットや副音声室の設備などにも直接触れもらうプログラムを考えました。スタジオカメラの操作や、ナレーションを収録するマイクの使い方を体験してもらったところ、高校生から驚きの声や笑い声があがるなど、初めての放送体験を楽しんでもらうことができました。



スタジオカメラの操作体験



マイクのスイッチ(FU)の操作

毎回、試行錯誤しながら進めていますが、参加した子どもたちや保護者から好評の声をいただいています。

【参加者・保護者の声】

- ・ 一番印象に残ったのは、撮影カメラの大きさです。また本番直前のスタジオの緊張感もびっくりしました。
- ・ 視覚に配慮した内容を考えてくださり、感謝しています。
- ・ 障害があるからダメではなく、何とかできるように考えてくださって、さすがNHKだと思いました。



札幌市内の特別支援学級のみなさまからのお礼状

参加者の口コミで評判が広がり、今では札幌放送局の見学者の4割以上が、特別支援学級などの子どもたちです。

こうした放送体験や訪問学習を通じて、児童・生徒のみなさんに、NHKをより身近に感じていただけるよう、今後も取り組んでいきます。

見学の実施や内容については、各放送局にお問合せください。

- 全国のNHK(各放送局の所在地・電話番号・ホームページのご紹介)

<https://www.nhk.or.jp/info/about/nationwide-nhk.html>

- NHKみなさまの声にお応えします 訪問学習について

<https://www.nhk.or.jp/css/communication/heartplaza-visit.html>

- 札幌放送局 会館見学のご案内

<https://www.nhk.or.jp/hokkaido/articles/slug-nb3cced358a29>

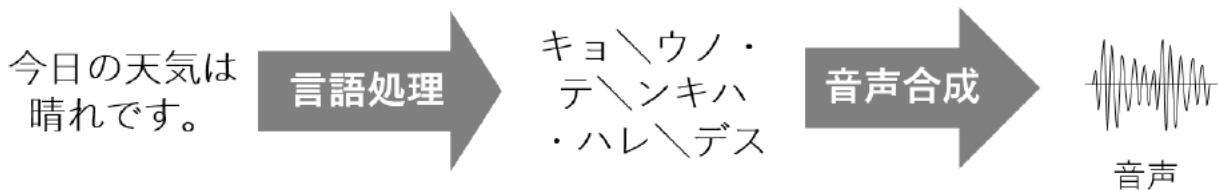
■未来に向けて進化を遂げる AIによるアナウンス

最近、ニュース番組や気象情報のコーナーで、「ここからは、AI自動音声でお伝えします」というコメントを耳にしている方は多いと思います。



「AI自動音声で伝えるニュース」

AI自動音声とは、文章に対応する音声を自動生成する技術で、NHK放送技術研究所が開発を進め、ラジオ放送などに取り入れられてきました。原稿を専用のシステムに入力すると、カタカナの文字とアクセントなどを示す記号に変換され、アナウンサーの読み方を学習したAIが読み上げるという仕組みです。現在は「おはよう日本」などのニュース番組のほか、全国27の放送局のラジオの気象情報で、導入しています。



AIアナウンスの仕組み

しかし、AIによるアナウンスの導入直後から、さまざまなご意見やご指摘を頂いてきました。

- ・ AIの音声でニュースを伝える時間がある。語尾がおかしくて、違和感がある。(60代男性)
※同様意見 複数
- ・ AIによるアナウンスで、微妙に音声のつながりが不自然に聞こえることがある。音声の意味がなかなか頭に入ってこない。(60代女性)

ご指摘にある違和感の要因の一つは、アクセントです。日本語は、複数のことばがつながるとアクセントが変化することがありますが、その変化に対応できず、聞き慣れないアクセントになることがありました。

そこで、NHKでは2016年以降、さまざまな改良を加えてきました。2023年6月からは、AIそのものが「日本語発音アクセント新辞典」で調べる機能を導入しました。新機能により、アクセントの精度が上がり、アナウンサーが読むような自然な日本語に近づけられるようになりました。

例)新型コロナウイルスに伴うことば 「集団免疫ができる」

アクセントの位置

新機能 導入前	シュューダンメンエキガ デキル
	1単語ずつアクセントがついてしまうので、違和感があ
新機能 導入後	シューダンメンエキガ デキル

視聴者のみなさまから寄せられた声です。

- AIのアナウンスが初期のころから発達し、自然な感じになって驚いた。(50代女性)
- AIのアナウンスは、とても高度な技術だ。向いていない番組もあるが、ニュースで使われるのはよいと思う。(60代男性)
- とても聞きやすく読み間違いもなく、自然でいいと思う。(60代)

こうしたAIアナウンスの技術は、社会のさまざまな場面で活用され始めています。その一つが、災害時に命を守る“防災の呼びかけ”を公開する取り組みです。大雨や熱中症などによる被害を防ぐため、AIを活用して作成した音声データを2022年9月から専用サイトで公開し、誰でも自由に活用できるようにしました。NHKアナウンサーが改善を重ねてきた呼びかけ文と合わせて、地域の防災減災に役立ててもらおうのがねらいです。



NHKアナウンサー
命を守る“防災の呼びかけ”



呼びかけの見本

雨が強まる前に地域のハザードマップを確認するなど、近くに危険な場所がないか確認して下さい。

▶ 0:00 / 0:08 🔊 ⋮ 📄 ダウンロード

これまでに76の呼びかけ文を公開し、2023年4月から10月末までに、音声データと合わせて6,000件近くがダウンロードされました。

東京・新宿区にある大規模バスターミナルでは、熱中症対策としてNHKが公開したAIアナウンスの音声データを活用。熱中症警戒アラートが出た時に「暑さから命を守る行動をとってください」「こまめな休憩、水分や塩分の補給など暑さ対策をしてください」などの呼びかけを、館内放送で繰り返し放送。ターミナルの利用者や従業員の安全確保に役立てたということです。



バスターミナルでの活用事例の紹介

そして令和6年能登半島地震では、金沢放送局や新潟放送局で、防災証明書の発行など繰り返し伝えるべきライフライン情報についてAIアナウンスを活用しています。「アナウンサーが中継や取材など現場に出ている時にも、必要な情報を確実に届ける」。人とAIアナウンスの両方で対応しています。

AIによるアナウンスの活用については、自治体や企業などほかにもさまざまな試みが進んでいます。NHKでは今後も、新たな技術をいかして、さらなる放送・サービスの充実につなげられるよう取り組んで参ります。

NHKアナウンサー 命を守る“防災の呼びかけ”

<https://www3.nhk.or.jp/news/special/suigai/yobikake/>

(参考)

NHK

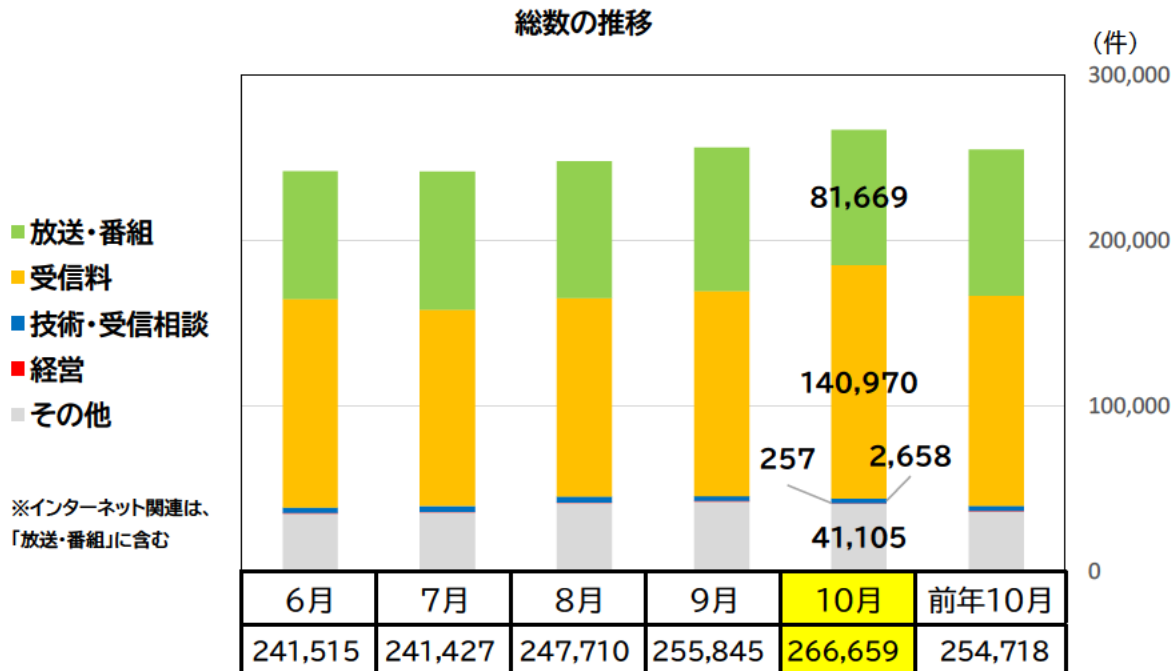
月刊みなさまの声
2023年10月



1. 視聴者の声の総数と内訳

■総数の推移と内訳

10月にNHKに寄せられた視聴者の声の総数は266,659件で、前月9月と比べ10,814件増加し、前年同月からは11,941件多くなりました。分野別の内訳では、「受信料」に関するものが140,970件（対前月比17,374件増加）で最も多く、次いで「放送・番組」が81,669件（対前月比5,023件減少）となっています。

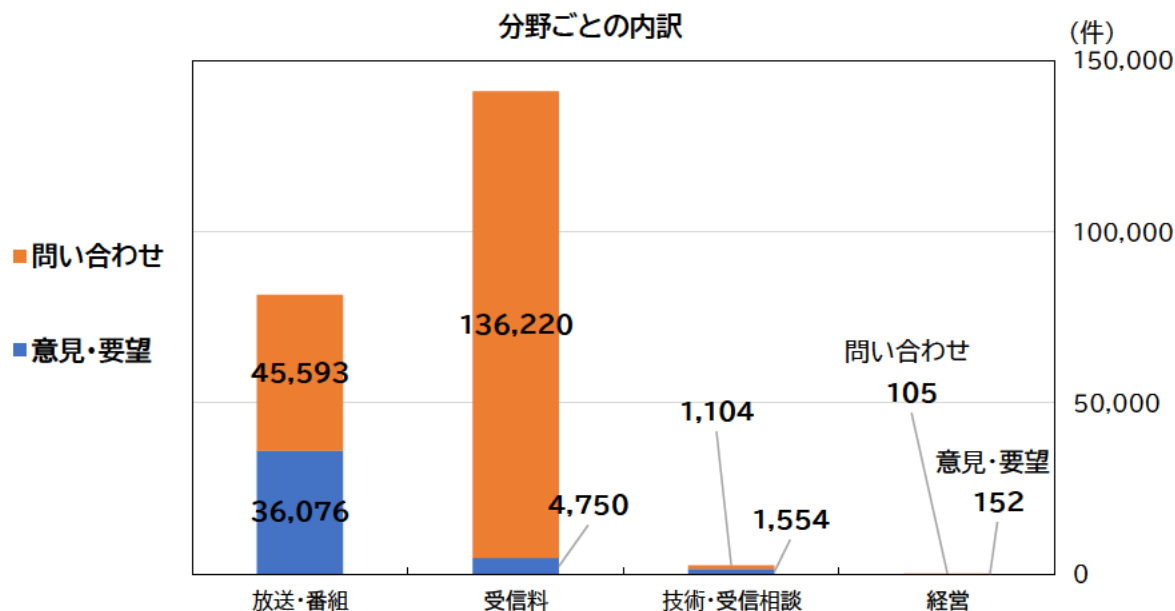


■分野ごとの内訳

「放送・番組」への声のうち、放送日や出演者に関する「問い合わせ」は45,593件で55.8%、番組内容や演出などに関する「意見・要望」が36,076件で44.2%でした。

また、「受信料」への声は、96.6%が料金や手続きに関する「問い合わせ」で136,220件、「意見・要望」は3.4%にあたる4,750件でした。

いただいた「問い合わせ」や「意見・要望」には、あらかじめ準備した資料などをもとに、ふれあいセンターをはじめとする受付窓口で回答したほか、内容によっては営業や番組制作など、担当部局と連携して対応を完了しています。



2. 放送・番組への声

「放送・番組」について寄せられた「意見・要望」は36,076件で、好評意見がおよそ3割、厳しい意見はおよそ7割でした。

	8月	9月	10月	2022年度平均
好評意見	32.0%	32.6%	27.3%	30.5%
厳しい意見	68.0%	67.4%	72.7%	69.5%

厳しい意見の中には、表記の誤りや誤読などをご指摘いただいたものもあり、放送関連では67件（前月77件）、ホームページ関連では41件（前月39件）でした。制作担当者に伝えて再放送などで修正したほか、番組の責任者らが出席する各種会議などでも情報を共有し、注意を促しました。

10月はラグビーワールドカップ2023やプロ野球など、スポーツ中継に多くの声が寄せられました。こうした中、みなさまから寄せられる声をもとに改善を重ね、放送・サービスを進化させているNHKの大相撲中継の取り組みをご紹介します。

■大相撲ファン納得の放送・サービスを目指して

NHKでは、70年あまりに渡って、大相撲の場所を生中継でお伝えしています。毎回、大相撲ファンから寄せられるさまざまなご意見やご要望を参考にしながら、制作担当者は、さらに分かりやすく大相撲の魅力を伝えようと、場所ごとに検討し、改善を重ねています。

その一つが、スマートフォンやパソコンなどで見られる「大相撲特設サイト」。「もう一度、あの取組を見たい」「郷土力士の結果を知りたい」などの声に応じて、このサイトでは、場所中いつでも十両・幕内の全取組を動画で視聴できるほか、取組結果や特集記事を読むことができます。

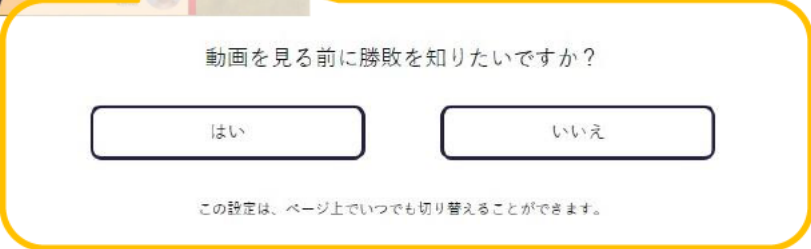


大相撲特設サイト

特設サイトを開設した後も、大相撲ファンからは、さらに取組を楽しめるよう、工夫して欲しいという要望が寄せられました。

- ・ 勝敗や決まり手などの結果を知らずに楽しみにして動画を見たいので、この操作がページのトップにあるとありがたい。(30代男性)

そこで導入したのが、動画のページが表示される前に、勝敗を「表示する」か「表示しない」かを選択できる仕組みです。こうした改善を重ねたこともあり、多くの方に大相撲取組動画をご利用いただいています。



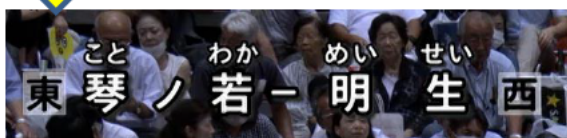
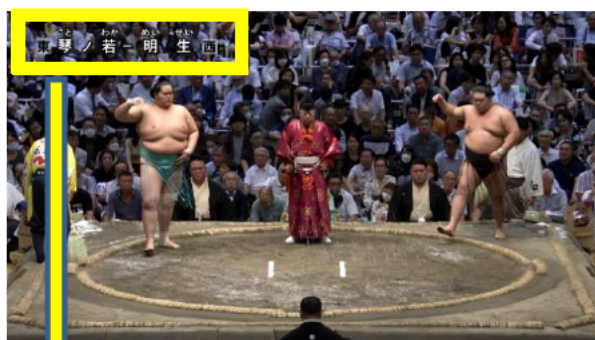
特設サイトを開くと、勝敗を知りたいかどうかの選択ボタンが表示される

さらにことしの初場所からは、大相撲ファンから数多く寄せられる、「文字情報への要望」についても改善しています。

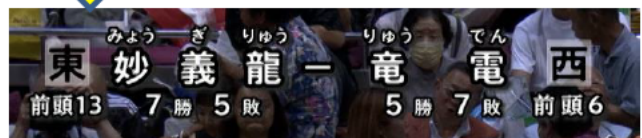
【視聴者から寄せられた声】

- ・ 行司軍配が返るまでの間、それぞれのしこ名の下に、小結などの「番付」と3勝1敗などの「前日までの勝敗数」を表示してもらえないか。(70歳以上男性)
- ・ テレビ画面の左上に東・西の力士のしこ名の字幕がありますが、「東□□(○勝○敗)ー(○勝○敗) □□西」という表示をしてほしい。(30代男性)

勝敗数については、これまでも力士が土俵にあがる場面で表示していましたが、ことしの初場所から新たに表示を増やしました。勝敗が翌場所の番付に大きく影響する13日目以降の十両・幕内の取組で、勝敗数の表示を画面の左上に出し続けるようにしたのです。



勝敗表示なし



勝敗表示あり

初場所中継の後、視聴者のみなさまからいただいた反響です。

- ・ 画面左上のテロップに「東西」および「しこ名とふりがな」に加えて、「番付」と「前日までの勝敗数」の表示についても、早速対応してもらいありがとう。これからも大相撲の放送を楽しみしている。(70歳以上男性)
- ・ しこ名の下に前頭何枚目とか、何勝何敗かを載せてほしいと前に頼んだことがある。その表示がされるようになり本当によかった。(70歳以上男性)

これからも、多くの方に大相撲の魅力を楽しんでいただける放送・サービスを目指して、場所ごとに検討と改善を進めていきます。

NHKスポーツ 相撲 <https://www3.nhk.or.jp/sports/sumo/>

大相撲取組動画 <https://www3.nhk.or.jp/sports/special/sumomovies/>

大相撲取組動画・スマートフォン用二次元コード



■10月 反響の多かった番組

最も多かったのは、さまざまな性の話題や悩みについて世界の最新情報を交えながら松本人志さんと出演者たちが語り合った特集番組で、多様なご意見や感想が寄せられました。また旧ジャニーズ事務所の性加害問題を受けて、所属タレントの起用などについて問い合わせや要望が多くありました。

※集計期間 10月1日～31日



<10月放送以外の番組への反響>

第74回NHK紅白歌合戦(12/31)

3,870件

3. インターネット業務への声

インターネット業務に関して、10月の受付件数は15,992件(前月比46件減)で、このうち86%がNHKプラスに関するものです。使い方への問い合わせが多く寄せられているほか、「NHKプラスのことを知って、思い切ってスマートフォンに挑戦。悪戦苦闘しながら、これまで見られなかった番組を楽しんでいる。(70歳以上男性)」といった好評の声も寄せられました。このほか、NHKを名乗る架空の発信元からのメールやダイレクトメッセージについての問い合わせや相談件数は76件と、前月に比べて半数以下に減りました。今後も状況を注視しながら、放送やホームページで注意喚起するなどの対応を行っていきます。

受付内容	件数
NHKプラス	13,788
ホームページ	811
動画音声配信(語学番組など)	538
らじる★らじる	242
NHKオンデマンド	174
モバイル機器の操作	153
その他	286
合計	15,992

4. 受信料への声

ふれあいセンター(営業)で受け付けた「意見・要望」は3,988件で、前月と比べて1,689件増加しました。これは9月下旬から10月にかけて受信料の値下げ等の制度変更のご案内や受信契約の手続き・案内に関する送付物を多く発送したため、増加したと考えられます。

10月から施行された「受信料の値下げ」「学生を対象とする受信料免除の拡大」に関しては、放送・ウェブサイト・SNS・DM などさまざまな方法でお知らせしました。

	事由	件数
送付物	受信契約の手続き・案内に関する送付物について	3,090
	受信料の支払いに関する送付物について	155
諸手続き	契約に関する事務手続きについて	289
	ウェブサイト「受信料の窓口」について	53
CASメッセージ	BSデジタル放送のメッセージ消去等について	69
スタッフ関係	訪問員の対応・訪問日・訪問時間等について	68
受信料制度	受信料制度・不公平感・料金体系について	56
番組サービス	番組内容や出演者について	27
	インターネットサービスについて	4
その他		177
合計		3,988

5. 技術・受信相談への声

ふれあいセンター(受信相談)および各放送局の受信窓口で受け付けた技術・受信相談に関する「意見・要望」や「問い合わせ」は2,238件でした。内訳は、映像が受信できないなどの「受信不良」の申し出が1,674件、「技術相談」は564件でした。BS4K・BS8K放送の受信方法や機器の設置や接続に関する相談が多く寄せられました。

	件数
受信不良	1,674
一次対応	991
個別受信設備不良	812
共同受信設備不良	152
雑音障害	17
建造物による受信障害	5
混信・難視聴など	5
二次対応	683
技術相談（受信方法などへの問い合わせ）	564
合計	2,238

※一次対応⇒電話による対応、二次対応⇒訪問による対応

6. 経営への声

ふれあいセンター(放送)に届いた経営に関する声は235件で、前の月(349件)に比べて、100件あまり減りました。最も多かったのは、衛星波の再編や音声波の削減についての声で、合わせて67件でした。「新たな申し込みや機器が必要なのか」「ラジオ放送の削減はいつからか」などの問い合わせやご意見が寄せられました。また旧ジャニーズ事務所の性加害問題については、メディアの責任を問う声やこれまでの経緯の検証を求める声が寄せられています。このほか、「NHK経営計画(2024～2026年度)」(案)の意見募集について、内容や送付方法についての問い合わせなどがありました。

受付内容	件数
衛星波・音声波の整理・削減	67
旧ジャニーズ事務所 性加害問題	59
受信料について	23
NHK経営計画について	22
不祥事関連	21
その他	43
合計	235

7.反響の多かった番組から

■【新】【連続テレビ小説】ブギウギ

第1週「ワテ、歌うで！」

10月2日(月)～7日(土)※本編5回、
土曜振り返り1回

総合 前 8:15～8:15

BSプレミアム・BS4K 前7:30～7:45



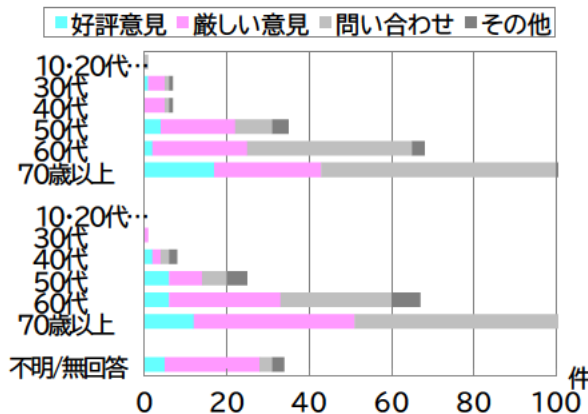
反響 495件 ※10月2日～8日で集計

(好評意見55件、厳しい意見176件、問い合わせ219件、その他の意見45件)

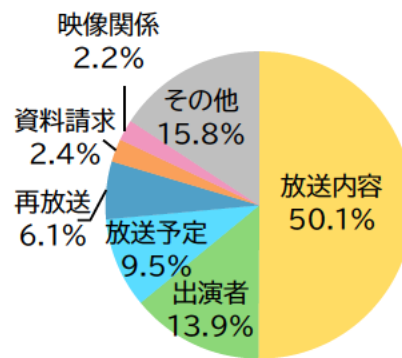
109作目となる連続テレビ小説「ブギウギ」は、「東京ブギウギ」などの大ヒット曲で「ブギの女王」と呼ばれた戦後の大スター、笠置シズ子さんをモデルに、ヒロインが大正から昭和にかけての激動の時代に多くの困難を乗り越えながら歌手の道を突き進み、人々に勇気と希望を与えていく物語です。

番組開始から1週間に寄せられた反響は495件で、前作「らんまん」(492件)と同程度でした。主人公の明るいキャラクターやテンポのよいストーリー展開に好評の声が寄せられました。また再放送や土曜日のダイジェスト版の放送予定のほか、番組のポストカードなどの広報物の入手方法についてなど、問い合わせが半数近くを占めました。一方、タイトルバックの映像や言葉遣いなどへの厳しい意見も目立ちました。

●意向種別×年代性別



●受付内容の内訳



【主な内容】

<好評意見>

○主人公や出演者について

- ・楽しみにしていた「らんまん」が終わり、残念に思っていたところ、2日から始まった「ブギウギ」は「らんまん」とはまた違う感じの明るいヒロインで、朝から元気をもらった。(40代女性)
- ・好きな俳優が出演していると聞き、生まれて初めて朝ドラというものを見た。始まってみると、歌と明るくエネルギッシュな空気感にあふれた、とても楽しい時間だった。(50代女性)

○ストーリー展開や時代背景について

- ・とても楽しくておもしろくて、いいドラマだ。私はBSP7:30～を見た後、総合8:00～と昼の再放送と1日3回も見ている。1日3回も見るのは「マッサン」以来だ。(70歳以上女性)

- ・ ドラマの主人公が実在した人物をモデルにしていると当時の時代背景も分かりやすく、見る方もやはり実感がわく。2日から始まった「ブギウギ」も笠置シズ子さんのことをドラマにしているので今後が楽しみだ。(70歳以上女性)
- ・ 今回は主演の趣里さんや蒼井優さんなど魅力的な俳優陣の出演とあり、1回目からどっぷりハマっている。この時代は私の生まれるずっと前のことなのに、なぜか懐かしく温かい気持ちになり、なぜか毎回、涙がこぼれる。どんな展開になるのか。とても楽しみだ。(50代女性)

○タイトルバックについて

- ・ 最初に目に焼き付いたのはオープニングの曲に合わせて踊る人形の動画だ。とてもすてきで、気に入った。きょうの話はどんな展開になるのかワクワクさせてくれる。(70歳以上女性)
- ・ オープニングの映像で人形が踊っているが、以前、教育テレビで放送していた人形劇のようで当時が懐かしく思い出され、とてもすばらしい。(60代男性)

※タイトルバックへの好評意見 4件

<厳しい声>

○タイトルバックについて

- ・ オープニングに登場する人形の顔に違和感がある。主人公を模したのだろうが、イメージと違う。見る人を元気づけるドラマなら、なおさらあの人形は逆の印象を受ける。(60代男性)
- ・ オープニングで踊っている人形は手足が長くて細い。やせていてウエストも細くて、顔も怖く感じる。(60代女性)

※タイトルバックへの厳しい意見 100件

○方言や言葉遣いについて

- ・ この番組のタイトル「ブギウギ」のアクセントについて、さまざまな番組でアナウンサーは頭高で発音しているが、大阪生まれ大阪育ちの私にしてみれば、大阪弁にはないアクセントで大阪弁を話すような違和感があるのでやめてほしい。(60代女性)

※「ブギウギ」のアクセントについての意見 6件

- ・ 私は大阪生まれの大阪育ちだが、せりふにあった「おおきに」という言葉についてイントネーションが違うと思う。放送で使っているのは京都のイントネーションだ。大阪とはちょっと違い、納得がいかない。(70歳以上女性)

※「おおきに」のイントネーションについての意見 5件

- ・ 大阪では「アホやな・・・」とかは会話の中で普通に言うけれど、「アホのおっちゃん」というのは、いくらだらしない相手に対しても言葉がきついのではないかと思う。(60代男性)

※「アホのおっちゃん」という言葉遣いへの意見 4件

○演出についての意見

- ・ 演出で気になることがあった。いくら主人公の実家が風呂屋とはいえ、少女の鎖骨が出るような形で入浴シーンを何度も映すところだ。昨今、子どもへの性加害が多く取り沙汰されている中、不適切だと思った。幅広い年齢層を対象にした朝ドラなのだから、十分に注意して制作してほしい。(年代不明)

NHK

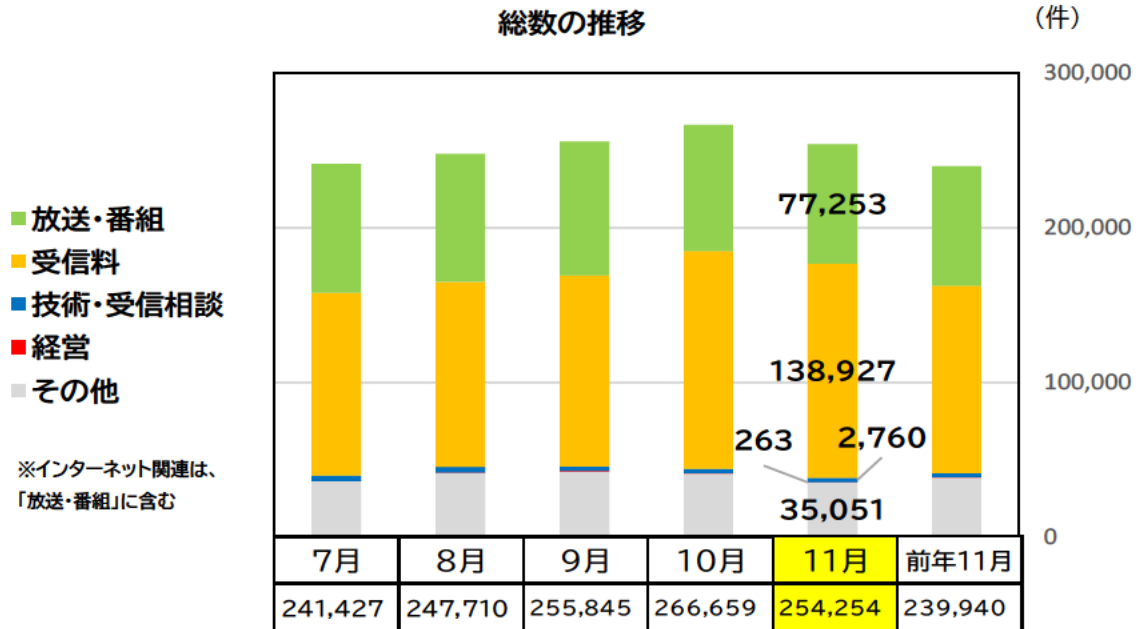
月刊みなさまの声
2023年11月



1. 視聴者の声の総数と内訳

■総数の推移と内訳

11月にNHKに寄せられた視聴者の声の総数は254,254件で、前月10月と比べ12,405件減少しました。分野別の内訳では、「受信料」に関するものが138,927件(対前月比2,043件減少)で最も多く、次いで「放送・番組」が77,253件(対前月比4,416件減少)となっています。

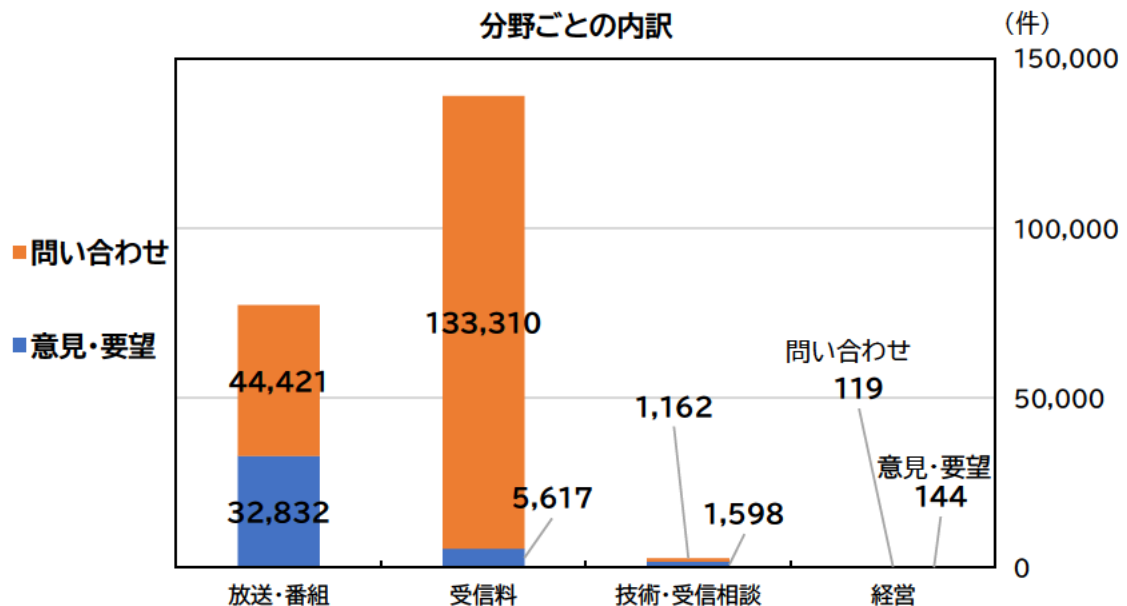


■分野ごとの内訳

「放送・番組」への声のうち、放送日や出演者に関する「問い合わせ」は44,421件で57.5%、番組内容や演出などに関する「意見・要望」が32,832件で42.5%でした。

また、「受信料」への声は、96.0%が料金や手続きに関する「問い合わせ」で133,310件、「意見・要望」は4.0%にあたる5,617件でした。

いただいた「問い合わせ」や「意見・要望」には、あらかじめ準備した資料などをもとに、ふれあいセンターをはじめとする受付窓口で回答したほか、内容によっては営業や番組制作など、担当部局と連携して対応を完了しています。



2. 放送・番組への声

「放送・番組」について寄せられた「意見・要望」は32,832件で、好評意見がおよそ3割強、厳しい意見はおよそ7割弱でした。

	9月	10月	11月	2022年度平均
好評意見	32.6%	27.3%	34.7%	30.5%
厳しい意見	67.4%	72.7%	65.3%	69.5%

厳しい意見の中には、表記の誤りや誤読などをご指摘いただいたものもあり、放送関連では66件(前月67件)、ホームページ関連では42件(前月41件)でした。制作担当者に伝えて再放送などで修正したほか、番組の責任者らが出席する各種会議などでも情報を共有し、注意を促しました。

視聴者のみなさまからは、NHKのスタジオ見学や会館公開に対するご意見やご要望なども寄せられています。いただいた声をもとにスタートした、新たな取り組みをご紹介します。

■「訪問学習」再開！ ～子どもたちに豊かな体験を～

ことし11月、東京・渋谷のNHK放送センターでは、新型コロナウイルスの影響で中止していた「訪問学習」を3年9か月ぶりに再開しました。訪問学習は、全国の中学生・高校生を対象に、番組で実際に使われているスタジオでリハーサルなど番組制作の現場を見て、仕事や働くことについて学んでもらうキャリア教育の支援策の一つです。コロナ禍前には年間、1,800人を超える生徒が参加していました。全国各地の学校からは、休止期間中も、「テレビ局の仕事について、子どもたちが直接学ぶ機会を作ってほしい」「修学旅行の思い出に、制作現場を見学させてほしい」といったご意見をいただきました。そこで今回、再開するにあたって力を入れたのが「多彩な見学メニュー」と「リアルな体験」です。

再開後、早速、申し込んでくれたのは、沖縄県的那覇商業高校と、茨城県の土浦第一高校のみなさん。90分ほどかけて、総合テレビ「あさイチ」や「明日をまもるナビ」などの制作現場を見学。番組がどのように制作されているのか、担当者の解説を聞きながら、出演者の代役を務めるなど、リハーサルを実体験しました。この他にも、全国向けのラジオニュースを生放送している様子を間近で見学してもらいました。



防災情報番組「明日をまもるナビ」のリハーサルを見学



チコちゃんと記念撮影

【参加した生徒の声】

- ・ 見るだけだと思っていたのに、カメラの前に立ててうれしかった。
- ・ 全国に向けての生放送の場面を見ることができて感激した。

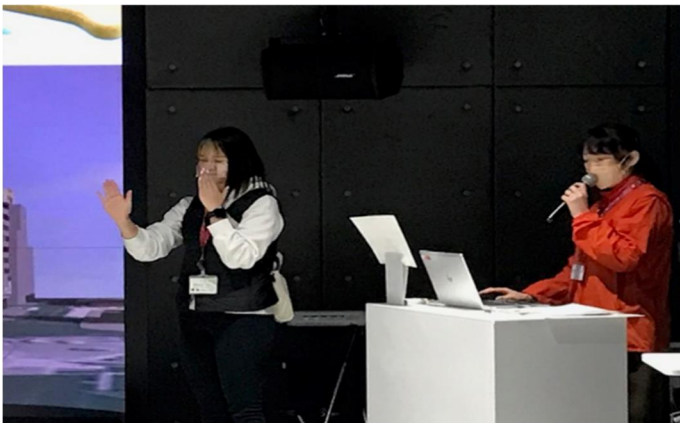
さらに、特別支援学校の先生や関係者などからは、「ぜひ障害のある子どもたちも参加できるようにしてほしい」という声が寄せられてきました。

【視聴者から寄せられた声】

- ・ 特別支援学校の生徒20名ほどで団体見学はできますか？(30代女性)
- ・ 社会福祉法人で障害のある子どもたちが通う事業所をやっているのですが、NHKの見学は行っていますか？(40代男性)
- ・ 高等特別支援学校ですが、校外学習でNHKを見学したいのですが大丈夫でしょうか？(40代男性)

こうした声に応じて、障害のある児童・生徒のみなさんを積極的に受け入れているのがNHK札幌放送局です。障害のある子どもたちの社会見学を受け入れてくれる施設が少ない、という相談が寄せられていることをきっかけに、ことし1月から本格的に取り組みを進めています。大切にしているのは、それぞれの障害や希望に合わせたプログラムを準備することです。事前に学校の先生や引率担当者とは打ち合わせや下見を行い、見学ルート of 安全確認をはじめ、障害に応じて配慮すべきことや、子どもたちに楽しんでもらえるポイントなどをすり合わせています。

例えば、聴覚に障害がある子どもたちが訪れた時は、手話通訳を介して説明するため、見学時間を1.5倍に延長しました。また、通常はスタジオの照明を暗くして映像を上映しますが、この時は、手話通訳者が見えるよう、一部、照明をつけたままにするなどの工夫をしました。



手話通訳者による説明



札幌局のスタジオ見学

また、視覚に障害のある高校生が訪れた際は、番組制作や技術などの職員を交えて見学内容を検討し、スタジオセットや副調整室の設備などにも直接触れてもらうプログラムを考えました。スタジオカメラの操作や、ナレーションを収録するマイクの使い方を体験してもらったところ、高校生から驚きの声や笑い声があがるなど、初めての放送体験を楽しんでもらうことができました。



スタジオカメラの操作体験



マイクのスイッチ(FU)の操作

毎回、試行錯誤しながら進めていますが、参加した子どもたちや保護者から好評の声をいただいています。

【参加者・保護者の声】

- ・ 一番印象に残ったのは、撮影カメラの大きさです。また本番直前のスタジオの緊張感もびっくりしました。
- ・ 視覚に配慮した内容を考えてくださり、感謝しています。
- ・ 障害があるからダメではなく、何とかできるように考えてくださって、さすがNHKだと思いました。



札幌市内の特別支援学級のみなさまからのお礼状

参加者の口コミで評判が広がり、今では札幌放送局の見学者の4割以上が、特別支援学級などの子どもたちです。

こうした放送体験や訪問学習を通じて、児童・生徒のみなさんに、NHKをより身近に感じていただけるよう、今後も取り組んでいきます。

見学の実施や内容については、各放送局にお問合せください。

- 全国のNHK(各放送局の所在地・電話番号・ホームページのご紹介)

<https://www.nhk.or.jp/info/about/nationwide-nhk.html>

- NHKみなさまの声にお応えします 訪問学習について

<https://www.nhk.or.jp/css/communication/heartplaza-visit.html>

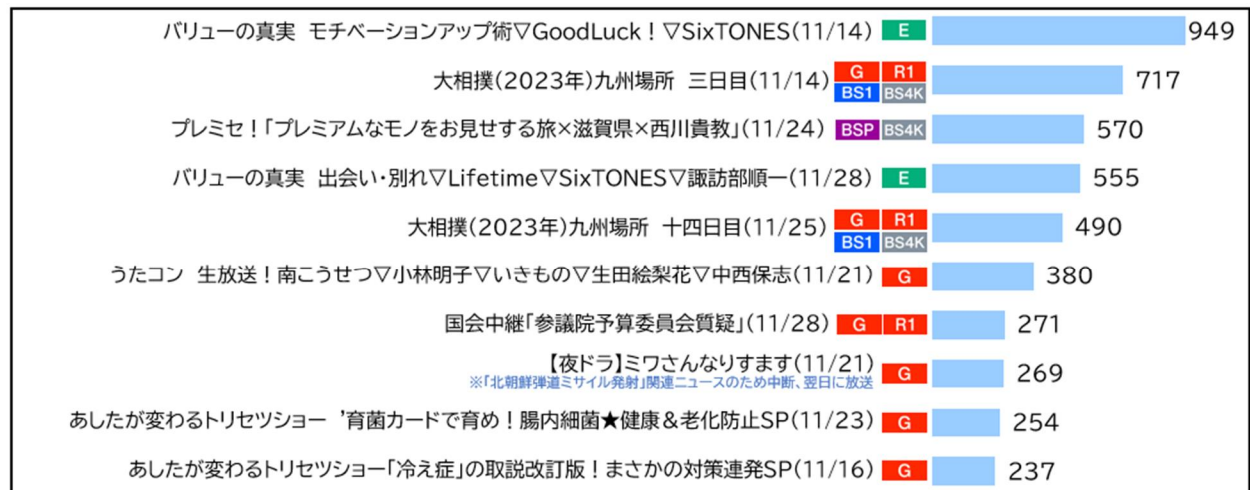
- 札幌放送局 会館見学のご案内

<https://www.nhk.or.jp/hokkaido/articles/slug-nb3cced358a29>

■11月 反響の多かった番組

最も多かった「バリューの真実」には、旧ジャニーズ事務所の性加害問題を受けた所属タレントの起用などについて、問い合わせや要望が寄せられたほか、「ザ少年倶楽部プレミアム」から番組タイトルや内容を変更した「プレミセ！」にも反響がありました。また、大相撲九州場所の放送予定や取組結果についても、多くの問い合わせがありました。

※集計期間 11月1日～30日



<11月放送以外の番組への反響>

第74回NHK紅白歌合戦(12/31)

4,986件

3. インターネット業務への声

インターネット業務に関して、11月の受付件数は15,617件(前月比375件減)で、このうち88%がNHKプラスに関するものです。使い方への問い合わせが多く寄せられているほか、「紅白歌合戦の出場者発表をNHKプラスで何度も楽しめた。使い方が分かって、ドラマなど幅広く見るようになった」といった好評の声も寄せられました。

このほか、NHKを名乗る架空の発信元からのメールやダイレクトメッセージについての問い合わせや相談件数は283件と、前月の76件から大幅に増えました。NHKプラスのアップグレードサービスをかたって、クレジットカードの番号などを入力させる巧妙な手口のものが増えていることから、今後も状況を注視しながら、放送やホームページで注意喚起するなどの対応をとっていきます。

受付内容	件数
NHKプラス	13,679
ホームページ	696
動画音声配信(語学番組など)	442
らじる★らじる	198
モバイル機器の操作	171
NHKオンデマンド	153
その他	278
合計	15,617

4. 受信料への声

ふれあいセンター(営業)で受け付けた「意見・要望」は4,805件で、前月と比べて817件増加しました。これは10月に引き続き11月においても受信契約の手続き・案内に関する送付物を多く発送したことが要因だとみています。

受信料の手続きを身近に感じてもらえるよう、10月からはデータ放送(総合テレビ)内の画面にある「受信料の窓口」を案内するページを刷新するなど、環境整備にも取り組んでいます。

	事由	件数
送付物	受信契約の手続き・案内に関する送付物について	3,941
	受信料の支払いに関する送付物について	190
諸手続き	契約に関する事務手続きについて	216
	ウェブサイト「受信料の窓口」について	62
スタッフ関係	訪問員の対応・訪問日・訪問時間等について	72
受信料制度	受信料制度・不公平感・料金体系について	57
CASメッセージ	BSデジタル放送のメッセージ消去等について	53
番組サービス	番組内容や出演者について	29
	インターネットサービスについて	16
その他		169
	合計	4,805

5. 技術・受信相談への声

ふれあいセンター(受信相談)および各放送局の受信窓口で受け付けた技術・受信相談に関する「意見・要望」や「問い合わせ」は2,343件でした。内訳は、映像が受信できないなどの「受信不良」の申し出が1,696件、「技術相談」は647件でした。12月から始まる衛星波の再編に関する問い合わせが多く寄せられました。

		件数
受信不良		1,696
	一次対応	1,028
	個別受信設備不良	832
	共同受信設備不良	137
	雑音障害	32
	混信・難視聴など	15
	建造物による受信障害	12
	二次対応	668
技術相談（受信方法などへの問い合わせ）		647
合計		2,343

※一次対応⇒電話による対応、二次対応⇒訪問による対応

6. 経営への声

ふれあいセンター(放送)に届いた経営に関する声は240件で、前の月(235件)と同程度でした。最も多かったのは、12月から始まる衛星波の再編についてで96件、「4Kが見られないのに、受信料がそのままなのは不公平だ」などのご意見や問い合わせが寄せられました。次いで多かったのは、報道局の記者が不正な経費請求を行っていたことがわかり懲戒免職となったことに関する厳しい意見で、48件でした。このほか、音声波の削減や、来年度からのNHKの次期経営計画などにも、ご意見や問い合わせがありました。

受付内容	件数
衛星波の再編	96
報道局記者 不正な経費請求	48
音声波の削減	16
NHK経営計画について	16
受信料について	16
その他	48
合計	240

7.反響が多かった番組から

■笑わない数学 第2シリーズ

10月4日、11日、18日、25日、11月8日、15日

総合 水曜 後 11:00~11:29



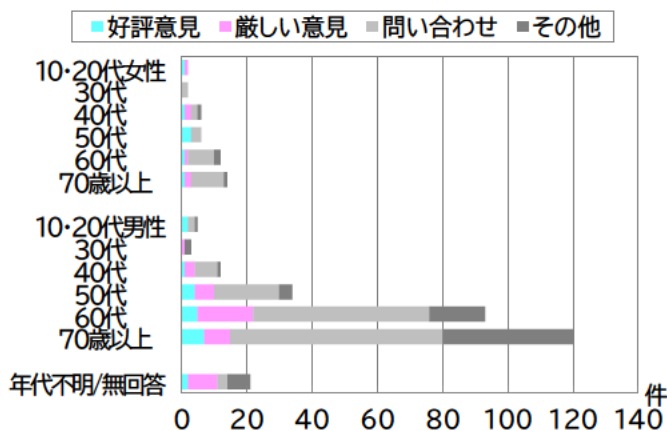
反響 330 件 ※10月2日~11月19日で集計

(好評意見28件、厳しい意見50件、問い合わせ176件、その他の意見76件)

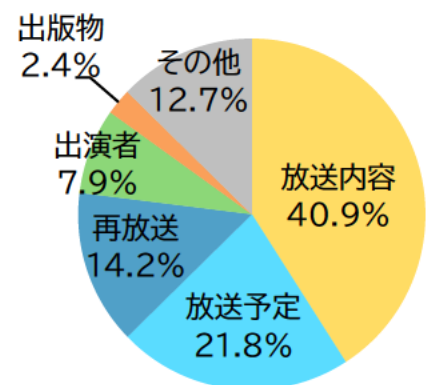
天才数学者をも苦しめてきた数々の難問、そして美しくも不思議な知の世界を、お笑い芸人、パンスターの尾形貴弘さんがギャグを封印して、トコトン分かりやすく掘り下げる異色の知的エンターテインメント番組。

続編を求める声を受けて10月からスタートした第2シリーズは、非ユークリッド幾何学やコラッツ予想などをテーマに、これまでに6回放送されました。番組には、数学が苦手でも、おもしろい、分かりやすいという感想や、数学の専門家からも取り上げたテーマについて好評の声が届きました。また番組の進行について賛否両論の声が寄せられたほか、現役教師や元教師と見られる方からは番組内で解説した問題について質問や問い合わせも目立ちました。

●意向種別×年代性別



●受付内容の内訳



【主な内容】

- 日常生活は数学と無縁だが、知的好奇心が刺激され、録画して何度も視聴している。30分という短時間で、あれだけ分かりやすく伝えられるのはとても素晴らしい。(50代女性)
- 子どものころから数学が好きで、大学では数学科に入学し、現在も大学院で数学を専攻している。専攻は偏微分方程式で、解析の分野に最も興味がある。番組で取り上げるテーマもとても興味深く毎週見ているが、いつか解析のテーマも扱ってもらえたらうれしい。番組を見ているとやはり数学はおもしろくて楽しいといつも再確認している。(20代女性)
- 数学が得意でない人にも分かりやすく、また大学院で数学を専攻した私にも十分に歯ごたえのある素晴らしい内容だ。中学生や高校生がより広く視聴するための工夫をしてほしい。学校で無料で視聴できるとか、番組の内容を編集して本にして出版するのも方法だと思う。(60代男性)

- ・ 数学は嫌いで苦手なのだが、番組スポットに興味を持ち放送を見た。尾形さんの起用で堅苦しいイメージがなくなり「数学っておもしろいのかも」と思えた。学生の時に出会っていたら「数学が嫌いにならなかったかも」と感じた。(50代女性)
- ・ とてもいい番組だと感じながら、毎週、勉強させてもらっている。尾形さんの進行がとても楽しく、語り口に一生懸命さと共に、お笑いを超えてトライしたいという姿勢を感じる。(50代男性)
- ・ 理解に必要な適切な間(ま)がなく、一方的になってしまい、理解を妨げて興味を継続しづらくしていると感じるときがある。(60代男性)
- ・ この番組に限らず最近の傾向として、お笑い芸人や若手タレントが番組の進行を担当することが多いが、中にはやたらと声を張る人がいて、耳ざわりに感じる時がある。番組の内容に合っていないと思う時があり、ガッカリさせられることもある。(50代男性)

NHK

月刊みなさまの声
2023年12月

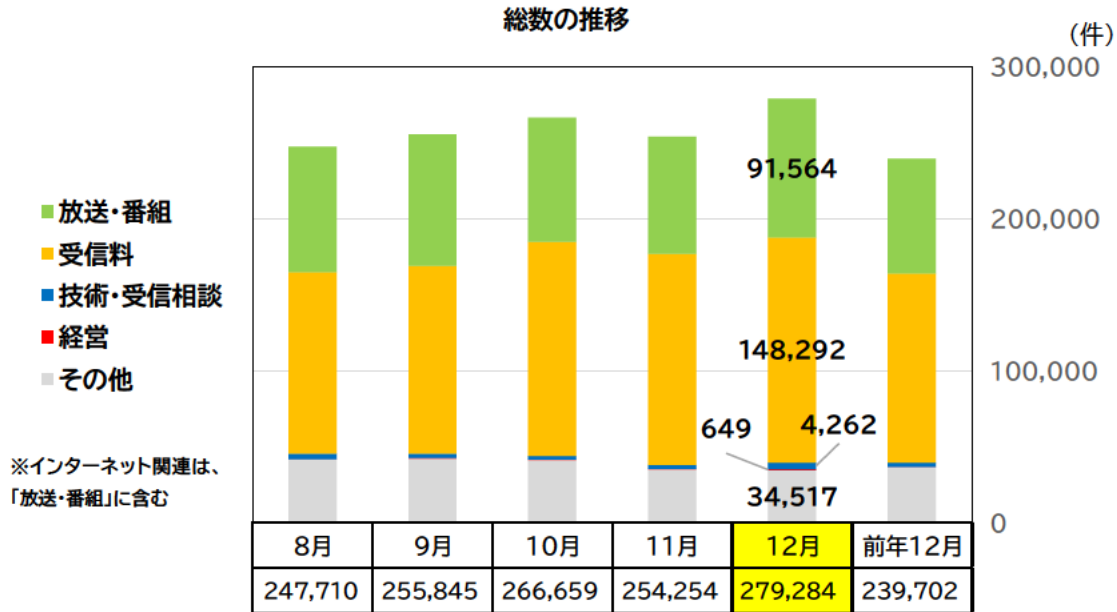


1. 視聴者の声の総数と内訳

■総数の推移と内訳

12月にNHKに寄せられた視聴者の声の総数は279,284件で、前月11月と比べ25,030件増加しました。これは主に、1日にスタートした「衛星波の再編」に対して、「個別番組の放送予定」や「4K番組の視聴方法」などの問い合わせが多く寄せられたことが影響しています。分野別の内訳では、「受信料」に関するものが148,292件(対前月比9,365件増加)で最も多く、次いで「放送・番組」が91,564件(対前月比14,311件増加)となっています。

なお、衛星波の再編については、視聴者のみなさまからの問い合わせに丁寧に答えられるように、ふれあいセンター(放送・営業・受信技術)の態勢を強化して対応しました。

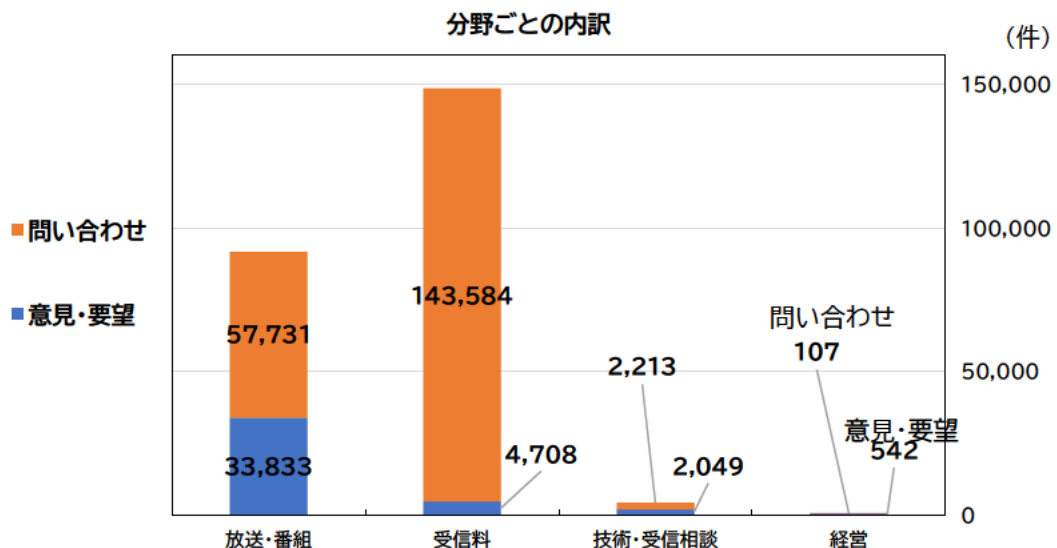


■分野ごとの内訳

「放送・番組」への声のうち、放送日や出演者に関する「問い合わせ」は57,731件で63.0%、番組内容や演出などに関する「意見・要望」が33,833件で37.0%でした。

また、「受信料」への声は、96.8%が料金や手続きに関する「問い合わせ」で143,584件、「意見・要望」は3.2%にあたる4,708件でした。

いただいた「問い合わせ」や「意見・要望」には、あらかじめ準備した資料などをもとに、ふれあいセンターをはじめとする受付窓口で回答したほか、内容によっては営業や番組制作など、担当部局と連携して対応を完了しています。



2. 放送・番組への声

「放送・番組」について寄せられた「意見・要望」は33,833件で、好評意見がおよそ4割、厳しい意見はおよそ6割でした。

	10月	11月	12月	2022年度平均
好評意見	27.3%	34.7%	36.1%	30.5%
厳しい意見	72.7%	65.3%	63.9%	69.5%

厳しい意見の中には、表記の誤りや誤読などをご指摘いただいたものもあり、放送関連では63件(前月66件)、ホームページ関連では40件(前月42件)でした。制作担当者に伝えて再放送などで修正したほか、番組の責任者らが出席する各種会議などでも情報を共有し、注意を促しました。

このうち、みなさまからの声を参考に、進化を遂げているNHKのAI(人工知能)によるアナウンスの技術や取り組みをご紹介します。

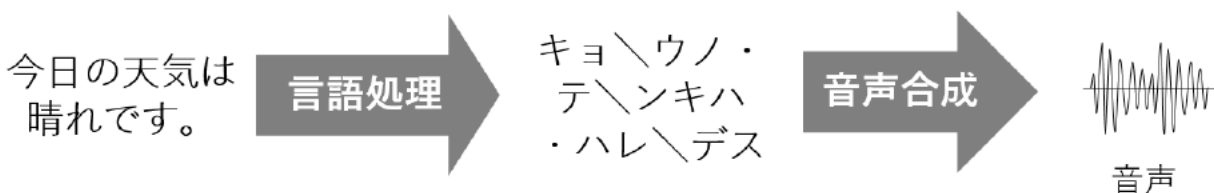
■未来に向けて進化を遂げる AIによるアナウンス

最近、ニュース番組や気象情報のコーナーで、「ここからは、AI自動音声でお伝えします」というコメントを耳にしている方は多いと思います。



「AI自動音声で伝えるニュース」

AI自動音声とは、文章に対応する音声を自動生成する技術で、NHK放送技術研究所が開発を進め、ラジオ放送などに取り入れられてきました。原稿を専用のシステムに入力すると、カタカナの文字とアクセントなどを示す記号に変換され、アナウンサーの読み方を学習したAIが読み上げるという仕組みです。現在は「おはよう日本」などのニュース番組のほか、全国27の放送局のラジオの気象情報で、導入しています。



AIアナウンスの仕組み

しかし、AIによるアナウンスの導入直後から、さまざまなご意見やご指摘を頂いてきました。



- ・ AIの音声でニュースを伝える時間がある。語尾がおかしくて、違和感がある。(60代男性)
※同様意見 複数
- ・ AIによるアナウンスで、微妙に音声のつながりが不自然に聞こえることがある。音声の意味がなかなか頭に入ってこない。(60代女性)

ご指摘にある違和感の要因の一つは、アクセントです。日本語は、複数のことばがつながるとアクセントが変化することがありますが、その変化に対応できず、聞き慣れないアクセントになることがありました。

そこで、NHKでは2016年以降、さまざまな改良を加えてきました。2023年6月からは、AIそのものが「日本語発音アクセント新辞典」で調べる機能を導入しました。新機能により、アクセントの精度が上がり、アナウンサーが読むような自然な日本語に近づけられるようになりました。

例)新型コロナウイルスに伴うことば 「集団免疫ができる」

アクセントの位置

新機能 導入前	
	1単語ずつアクセントがついてしまうので、違和感があった
新機能 導入後	

視聴者のみなさまから寄せられた声です。

- ・ AIのアナウンスが初期のころから発達し、自然な感じになって驚いた。(50代女性)
- ・ AIのアナウンスは、とても高度な技術だ。向いていない番組もあるが、ニュースで使われるのはよいと思う。(60代男性)
- ・ とても聞きやすく読み違いもなく、自然でいいと思う。(60代)

こうしたAIアナウンスの技術は、社会のさまざまな場面で活用され始めています。その一つが、災害時に命を守る“防災の呼びかけ”を公開する取り組みです。大雨や熱中症などによる被害を防ぐため、AIを活用して作成した音声データを2022年9月から専用サイトで公開し、誰でも自由に活用できるようにしました。NHKアナウンサーが改善を重ねてきた呼びかけ文と合わせて、地域の防災減災に役立ててもらおうのがねらいです。



NHKアナウンサー 命を守る“防災の呼びかけ”



呼びかけの見本

雨が強まる前に地域のハザードマップを確認するなど、近くに危険な場所がないか確認して下さい。

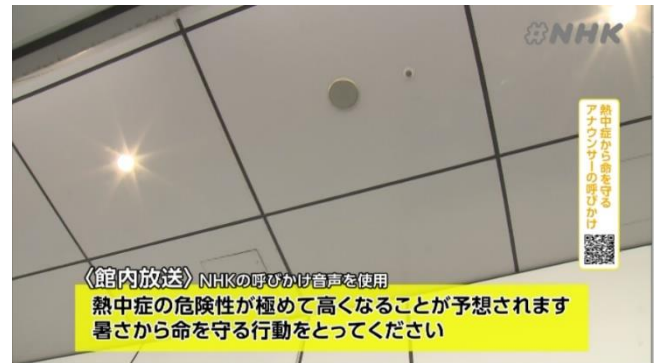
▶ 0:00 / 0:08



↓ ダウンロード

これまでに76の呼びかけ文を公開し、2023年4月から10月末までに、音声データと合わせて6,000件近くがダウンロードされました。

東京・新宿区にある大規模バスターミナルでは、熱中症対策としてNHKが公開したAIアナウンスの音声データを活用。熱中症警戒アラートが出た時に「暑さから命を守る行動をとってください」「こまめな休憩、水分や塩分の補給など暑さ対策をしてください」などの呼びかけを、館内放送で繰り返し放送。ターミナルの利用者や従業員の安全確保に役立てたということです。



バスターミナルでの活用事例の紹介

そして令和6年能登半島地震では、金沢放送局や新潟放送局で、防災証明書の発行など繰り返し伝えるべきライフライン情報についてAIアナウンスを活用しています。「アナウンサーが中継や取材など現場に出ている時にも、必要な情報を確実に届ける」。人とAIアナウンスの両方に対応しています。

AIによるアナウンスの活用については、自治体や企業などほかにもさまざまな試みが進んでいます。NHKでは今後も、新たな技術をいかして、さらなる放送・サービスの充実につなげられるよう取り組んで参ります。

NHKアナウンサー 命を守る“防災の呼びかけ”

<https://www3.nhk.or.jp/news/special/suigai/yobikake/>

■12月 反響の多かった番組

大みそかに放送した「第74回NHK紅白歌合戦」には、出場歌手や演出について、意見や要望が多数寄せられました。また、JO1が花火師との出会いを求めて秋田県の大曲を訪ねた「レギュラー番組への道」に多くの反響が寄せられたほか、12月1日に始まった衛星波の再編に伴って、「新・BS日本のうた」などの放送予定や視聴方法の問い合わせが数多く寄せられました。

※集計期間 12月1日～31日



<12月放送以外の番組への反響> 【ドラマ10】正直不動産2[新](1)「帰ってきた正直不動産」(1/9) 636件

3. インターネット業務への声

インターネット業務に関して、12月の受付件数は16,337件(前月比720件増)で、このうち89%がNHKプラスに関するものです。大みそかのNHK紅白歌合戦でNHKプラスのPRをしたあとは、アクセスが集中したため、「つながらない」という声が多く寄せられました。今回のことを教訓に、サーバーの増強など、対応策を検討して参ります。方で、「NHKプラスのおかげで、あさいちや大好きなドラマがゆっくり見られます」という好評意見も届いています。

このほか、NHKを名乗る架空の発信元からのメールやダイレクトメッセージについての問い合わせや相談件数は87件と、前月の196件から半数以下に減少しました。今後も状況を注視しながら、放送やホームページで注意喚起するなどの対応をとっていきます。

受付内容	件数
NHKプラス	14,525
ホームページ	666
動画音声配信(語学番組など)	388
らじる★らじる	166
NHKオンデマンド	161
モバイル機器の操作	130
その他	301
合計	16,337

4. 受信料への声

ふれあいセンター(営業)で受け付けた「意見・要望」は4,018件で、前月と比べて787件減少しました。11月と比較して、受信契約の手続き・案内に関する送付物が少なかったことが要因とみられます。

	事由	件数
送付物	受信契約の手続き・案内に関する送付物について	3,026
	受信料の支払いに関する送付物について	149
諸手続き	契約に関する事務手続きについて	271
	ウェブサイト「受信料の窓口」について	55
CASメッセージ	BSデジタル放送のメッセージ消去等について	63
受信料制度	受信料制度・不公平感・料金体系について	56
スタッフ関係	訪問員の対応・訪問日・訪問時間等について	52
番組サービス	番組内容や出演者について	19
	インターネットサービスについて	11
その他		316
合計		4,018

5. 技術・受信相談への声

ふれあいセンター(受信相談)および各放送局の受信窓口で受け付けた技術・受信相談に関する「意見・要望」や「問い合わせ」は3,605件でした。内訳は、映像が受信できないなどの「受信不良」の申し出が2,156件、「技術相談」は1,449件で前月(647件)と比べて2倍以上増加しました。これは、衛星波の再編に伴い、4Kの視聴方法などについての問い合わせが多く寄せられたためです。

	件数
受信不良	2,156
一次対応	1,382
個別受信設備不良	1,143
共同受信設備不良	204
雑音障害	22
建造物による受信障害	8
混信・難視聴など	5
二次対応	774
技術相談 (受信方法などへの問い合わせ)	1,449
合計	3,605

※一次対応⇒電話による対応、二次対応⇒訪問による対応

6. 経営への声

ふれあいセンター(放送)に届いた経営に関する声は517件。最も多かったのは、「衛星波の再編」をきっかけとした受信料額や受信料制度に対する意見で、331件でした。次いで多かったのは、報道局の記者が不正な経費請求をしていた問題で、第三者委員会の調査結果と、役職員の懲戒処分の内容について90件の厳しい声が寄せられました。

受付内容	件数
衛星波の再編	331
報道局記者 不正な経費請求	90
参議院総務委員会の質疑	19
NHK経営計画	14
その他	63
合計	517

7.反響の多かった番組から
■第74回NHK紅白歌合戦
「ボーダレス 超えてつながる大みそか」
 12月31日(日)
 総合・BSプレミアム4K・BS8K・ラジオ第1
 後7:20~11:45

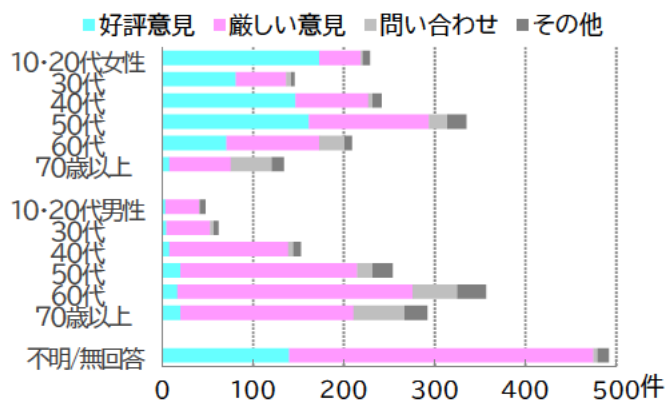


反響 2,953件 ※12月31日放送開始~1月3日で集計
 (好評意見856件、厳しい意見1,680件、問い合わせ243件、その他の意見174件)

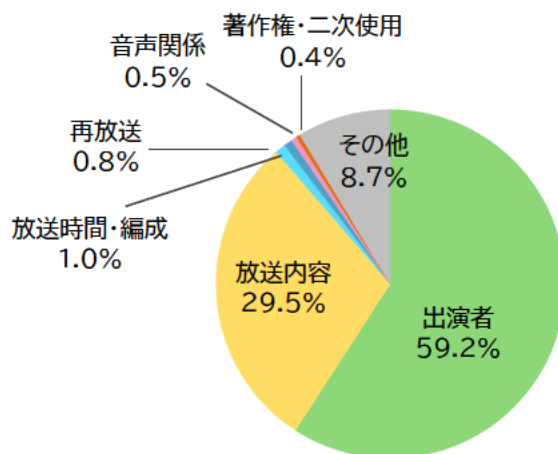
2023年のテーマは「ボーダレス」。国や、言葉や、世代を超えて人と人をつなげ感情を共有していく。そんな力が音楽にはあるという思いが込められた第74回紅白歌合戦。テレビ放送70周年を記念した特別企画をはじめ、観客をいれた特設スタジオからのライブステージや、歌とダンスパフォーマンスのコラボレーションなど、多彩な演出で49組の歌を届けました。

番組には、大みそかの放送開始から1月3日までに、過去5回と比べて最も多い2,953件の声が幅広い年代から寄せられました。「世代を超えて盛り上がった」「さまざまなアーティストのコラボや特別企画を楽しめた」といった好評の声の一方、「歌をじっくり聞きたかった」「歌の合間の余興が少ない」など厳しい意見も寄せられました。また、演出内容に関する問い合わせや要望など、さまざまな反響がありました。

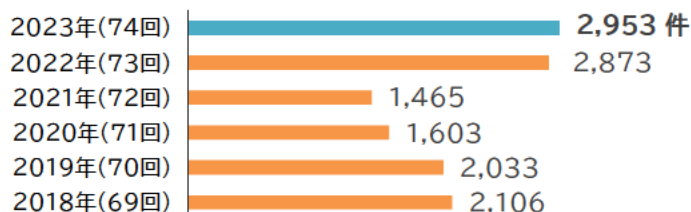
●意向種別×年代性別



●受け付け内容の内訳



●過去5回の意向件数推移



【主な内容】

○番組全般

<好評意見>

- ・ 本当にすばらしかった。こんなに最初から最後まで楽しめたのは初めてで、親族一同大盛り上がり。さまざまなコラボも大変良かった。また今年も楽しい企画を楽しみにしている。(40代女性)
- ・ 今回の紅白歌合戦はスピード感があって、楽曲、パフォーマンスを楽しめた。娘と一緒にK-popを楽しみ、娘は母と一緒に昭和歌謡を楽しみ、幸せな年越しとなった。(50代女性)
- ・ 全体的に、めでたい！祭りだ！と感じる場面が多く、紅白でしか実現し得ない映像で終始興奮していた。絶対に来年も見たいなと思ったし、テレビもまだまだおもしろいんだと感じた。(30代男性)
- ・ 今回は出演者同士が、紅白関係なく、世代もジャンルも超えて共演する演目が多く、まさにボーダレス。明るい曲も多くてとても楽しいコロナ禍明けの世の中にふさわしい紅白だった。(40代女性)

<厳しい意見>

- ・ 一人でしっかり歌う場面が少なく、他の歌手が歌う人の前で踊るなど、ごちゃごちゃしていたように感じた。基本的にその人の歌を聞きたい。別スタジオや中継の演出も多かった。ファンの人を入れたいのかもしれないが、NHKホールで生の感じで歌ってほしい。(70歳以上女性)
- ・ 若い人の歌が多かったというのもあるが、歌の合間の余興が少なかった。そのため、ほのぼのした部分が少なく、番組の進行もテキパキして淡々とした印象を受けた。(60代男性)
- ・ ボーダレスをうたっているのに、赤白男女に分かれているのが疑問。(50代男性)
- ・ 年の暮は、歌を聞いて、1年を振り返る機会にしたいのに、知らない人ばかりで選考方法に疑問を覚えた。また、歌っているときに歌詞が読み取れなかった。(70歳以上男性)

○出演者と演出について

<好評意見>

- ・ 白組1組目のJO1がとても印象的で良かった。出演者をつなぐ一体感のあるステージ、明るくエネルギーのあるパフォーマンスに元気をもらった。(20代女性)
- ・ 坂本冬美さんのすばらしい歌唱力と、JO1とBE:FIRSTのダンスの振り付け、表現力の調和がすばらしく、とてもすてきだった。NHKプラスで何度も見ている。(40代女性)
- ・ 石川さゆりさんとウクライナの民族楽器との共演は、日本にいる私たちがウクライナの方への配慮を忘れないためにも良かったと思う。必要なこと、大切なことを実践するNHKの姿勢に胸を打たれた。(50代男性)
- ・ YOASOBIの「アイドル」生歌唱は、期待以上の演奏と歌唱で、今をときめく世界的アイドルがひとつのステージに上がり、世界的ヒットの「アイドル」を踊るという2023年度最高のコラボだった。(40代女性)
- ・ 司会の三人がとても良く、安心して見ることができた。若い世代の音楽も新鮮で、YOSHIKIさん、福山雅治さん、MISIAさんは感動して涙が出た。(50代女性)

<厳しい意見>

- ・ 山内恵介さんが浅草から中継で出演する際、男性の芸人が裸体をさらして笑いを取る演出に、子どもも含めて家族全員が不快に感じた。(50代男性)

※同様意見 56件

- ・ 大泉洋さんの歌唱がすばらしかった。ただ、フルサイズでなかったのがとても残念。2番をカットしてしまうと歌詞の内容がおかしくなってしまう。きちんと最高のパフォーマンスが発揮できる場を提供すべきだ。(40代女性)
- ・ YOSHIKIさんの出演をもっと長く見ていたかった。あまりにも豪華なメンバーだったこともあり、2曲だけでは短く感じた。(60代男性)
- ・ けん玉のギネスチャレンジについて、アナウンサーから残念ながら失敗だった、というコメントはあったが、それだけだと何があつてそうなったのか、まったくわからない。そのあたりをもう少しきちんと伝えてほしかった。(70歳以上男性)

※三山ひろしさんのけん玉チャレンジについての問い合わせや要望 74件

- ・ もっと日本のアーティストの紹介をする場にして国内音楽の活性化につながる機会にしてほしい。外国のアーティストを呼ぶなら韓国だけでなく様々な国を紹介してほしい。(40代男性)

○テレビ放送70年 特別企画「テレビが届けた名曲たち」について

- ・ 寺尾聰さんの「ルビーの指環」は亡くなった父が大好きな曲。父を懐かしみながら涙を流しながら聞いた。(60代女性)
- ・ 寺尾聰さんの「ルビーの指環」、薬師丸ひろ子さんの「セーラー服と機関銃」など80年代の歌が逆に新鮮ですごく刺さった！(20代女性)
- ・ ポケットビスケッツ×ブラックビスケッツのコラボは最高！世代というのもあるが、ウンナンそろって出ているのもうれしいし、ブラビの歌をウッチャンが弾いているのにも感動した。(30代女性)
- ・ 伊藤蘭さんの歌と一緒に口ずさんでいたら、途中からなんともいえず込み上げるものがあり、横にいる主人も目頭を拭いていた。(60代女性)

○純烈×NHKプラス 連動企画について

- ・ 紅白歌合戦でNHKプラスで特別画像が見られると説明されたので、QRコードを読みとってアクセスしたら、アプリが必要で、急いでダウンロードしたら、今度は会員登録が必要だという表示が出て間に合わなかった。(年代不明)
- ・ QRコードが画面から外れて読み込めない。テレビの真ん中に表示されても用意している間に消えてしまう。もっと長く表示してほしい。(70歳以上女性)
- ・ 純烈のQRコード演出を観ようと思いアクセスしたら、混み合っていてつながるのを待っている間に曲が終わってしまった。こういう独自演出はとてもいいと思うが、アクセスが殺到するのは間違いないと思うので、事前に予告するなど工夫してほしい。(19歳以下男性)
- ・ 純烈がNHKプラスをPRしたらサーバーがダウンした。このような企画を実施するなら、どれくらいのアクセスが集中してどれくらいの負荷が掛かるか事前に想定し、然るべき準備を整えてからにしてほしい。(50代男性)

※放送時間中にNHKプラスにアクセスできない、見られない等 183件

7.反響の多かった番組から

■【大河ドラマ】どうする家康<全48回>

1月8日(日)~12月17日(日)

総合 後8:00~8:45

BSプレミアム・BSプレミアム4K

後6:00~6:45



反響 20,691件 ※1月1日~12月18日で集計

(好評意見 8,282件、厳しい意見 3,883件、問い合わせ 6,166件、その他の意見 2,360件)

幼少期から人質となり孤独な少年・竹千代が、三河武士の熱意に動かされ、乱世を生きる運命を受け入れ未来を切り開く—誰もが知る歴史上の人物、徳川家康の生涯を新たな視点で描くもので、家康役を松本潤さんが演じました。

意向総数は20,691件で過去3作と比べて大変多くなりました(2022年「鎌倉殿の13人」9,091件/2021年「青天を衝け」12,553件/2020年「麒麟がくる」14,420件)。このうち、好評意見が最も多く8,282件で40%を占めました。

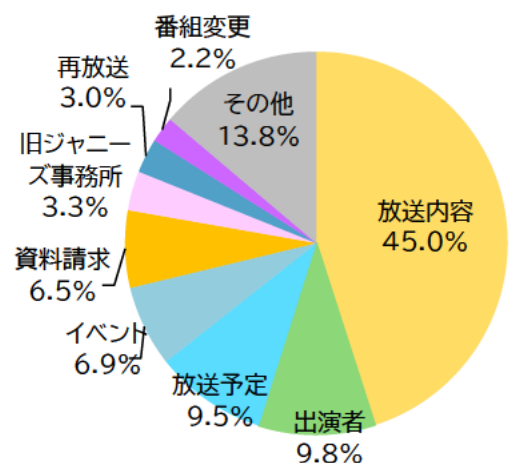
受付内容の内訳(円グラフ)をみると、「放送内容」に関するものが最も多く45.0%。「テンポがよく、わかりやすく面白い」「戦国時代の女性にスポットをあてている」など、脚本の古沢良太さんが手がけるストーリー展開や登場人物の取り上げ方についての好評の声のほか、大河ドラマでは今作から本格導入されたVFXなどの最新技術に対する賛否両論や、あえて音を消した“無音”の演出などを評価する声がありました。

「出演者」(9.8%)については、家康役の松本潤さんや、織田信長を演じた岡田准一さんなどの演技に対する声が多く、アドリブを交え熱のこもった演技に好評の声が集まりました。このほか、アニメを用いたオープニングタイトルや番組関連のイベント、番組の公式SNS展開に対しても反響がありました。

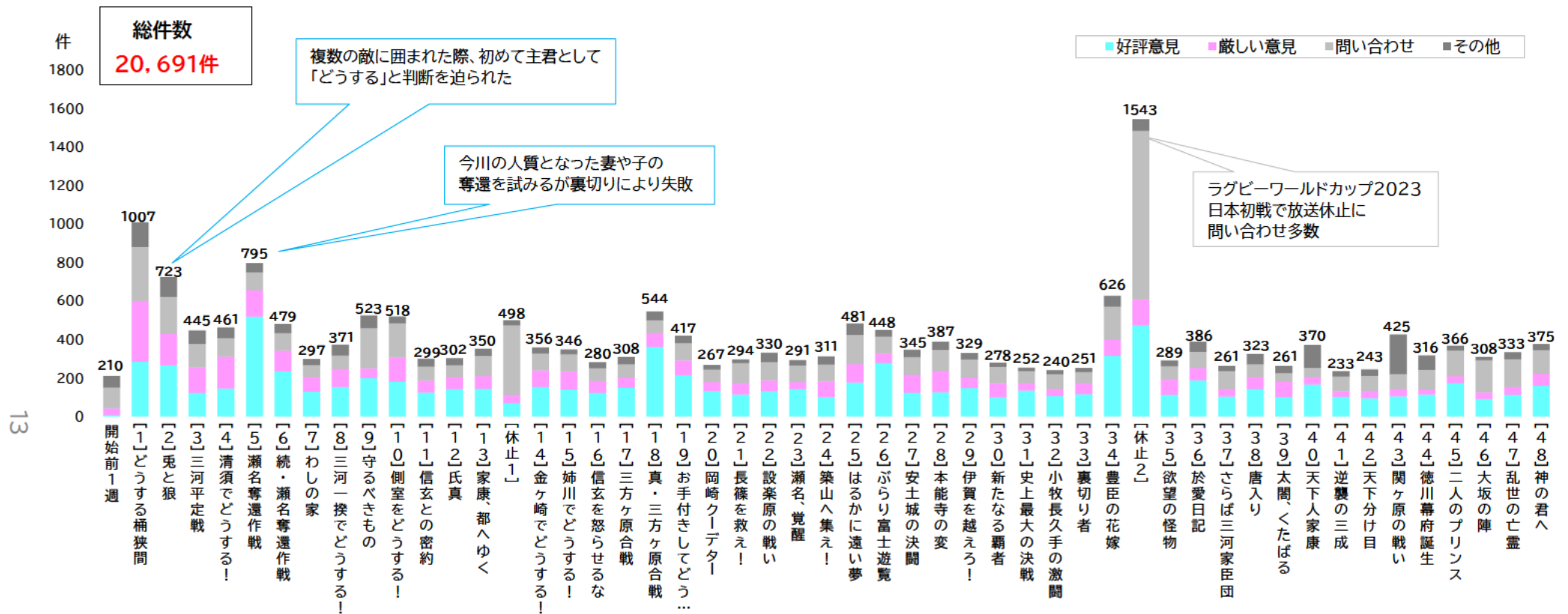
●意向種別×年代性別



●受付内容の内訳



●受付件数と意向種別の推移



放送期間中の受付件数と意向種別の推移をみると、全ての放送回を通して200件以上の反響があり、最も多かったのは、ラグビーワールドカップ2023の日本初戦で放送休止となった週で、放送予定の問い合わせが多く寄せられました。続いて、第1回の「どうする桶狭間」の1,007件。松本潤さんの大河ドラマ初主演への期待の声などが多く寄せられました。さらに、第5回の「瀬名奪還作戦」の795件。今川勢に捕らわれた妻・瀬名や子どもたちを忍者を使い救い出そうとするも、裏切りにより失敗するという展開に「ハラハラドキドキした」との感想が多く届きました。4番目は第2回の「兎と狼」で723件。初めて、タイトルにある『どうする』という決断を求められる回で、弱々しい若き元康(後の家康)が主君として覚醒し、今後どう成長していくのか楽しみだという声が多く寄せられました。

【主な内容】

○脚本について

- ・ これまで大河を見てこなかった人にもわかりやすくおもしろい。テンポがよく、大河ドラマおもしろい!とひきつけられる作品になっていると思う。(50代女性)
- ・ 一見コメディ満載の息抜き回のようにありながら随所に今後のストーリー展開のもととなるものが込められていて、見れば見るほど見応えを感じた。(50代女性)
- ・ 史実にはない部分も、その先の史実に絡むようなストーリー展開だと感じる。(40代女性)
- ・ 第1回から続けて見てきたからこそ伏線回収や驚きがあり、悲しみが倍増だった。(40代女性)
※伏線回収の巧みな脚本 同意見52件
- ・ ハラハラドキドキそして、涙があふれて拍手をしてしまうエンターテインメントの大河ここにあり!と興奮している。(60代女性)
- ・ 登場人物それぞれの個性が立っているので、名前が覚えきれなくても、顔で関係性を把握出来、それぞれの方の演技のテンポが違うのにととてもうまくみ合っていて、飽きさせないすごさを実感した。(40代女性)
- ・ 自分の信念の下、強く生きている・戦国時代の女性については詳細な記録が残されていないことが多くあいまいなどを素敵に埋めている。ああそうだったのかもしれないと思わせてくれる。(年代不明)

※女性の描き方について同意見10件

○演出について

▼最新技術のVFX

- ・ VFXの映像は、あの時代の世界観がよりリアルに伝わってきて、私はすごく好きだし、ゲーム好きな息子には全く違和感がないようだ。(50代女性)
- ・ CGやVFXを使った新しい試みも今までの家康像とはまた違った視点で作られ、とてもとても楽しみ。(年代不明)
- ・ 圧巻の合戦シーンはド迫力で、今作のVFXを使用した合戦シーンの最適解だったと思う。今後描かれる大坂の陣が楽しみになった。(30代女性)
※VFXを使った演出への好評意見13件
- ・ VFXなど新しい取り組みへの挑戦も感じられて良かった。ただ、CGの乗馬シーンは、ん?と思うところはあった。(30代女性)
- ・ なぜVFXを主体にドラマを構成するのか、あれではゲームの世界にいるようで現実味がまるでない。(50代女性)

※VFXを使った演出への厳しい意見11件

▼無音を生かした表現

- ・ 史実は知っているけれど家康公と家臣団の勝つぞ!的な心の勢いの後の無音。絶望感に満ちた家康公の顔。戦いの場面がなくても負けたんだってわかる演出。すごい!(40代女性)
- ・ 新たな戦法を描いたシーンは非常に見応えがあって、無音の演出がとても効果的で食い入るように画面に見入った。凄惨な戦場の様子にあっけにとられる徳川父子の姿が心に残った。(50代女性)
- ・ 無音からの生々しい戦いの音。メインテーマが流れるタイミング。音がとても印象的…目を背けたくなるけれど、これが戦。一貫して勝者と敗者だけでない悲しい描き方が心に刺さった。(年代不明)

※無音の演出に関する意見15件

○出演者について

- ・ 松本潤さんが非常にチャーミングにナイーブな家康公を演じていて豊かな表情と秀逸な演技に終始ひきこまれた。(50代女性)
- ・ 岡田信長と松潤家康の緊迫したやり取りと、ふたりの距離感・空気感は絶妙だしすごかった。(70歳以上女性)
- ・ 信康が自害された報告を受けた時の何も映らない殿の目の演技がすごかった。(50代女性)
- ・ 本多忠勝(山田裕貴さん)も榊原康政(杉野遥亮さん)の言葉はなくても表情や目の演技で、心が家康に向いていこうとしているのがわかった。(50代女性)
- ・ 本多正信(松山ケンイチさん)と服部半蔵(山田孝之さん)の参加でさらにパワーアップされた。前半はコミカルなシーン、後半はがらりと変わり、見ているこちらは、え？えっ？と動揺してしまうぐらい。(50代女性)
- ・ 石川数正(松重豊さん)が「殿を天下人に」と目を輝かせて声を張り上げて伝える演技と、涙をつと流す姿にジーンときた。松重さんの最後のセリフはアドリブだと聞いた。2人の迫真の演技に感動。(50代女性)
- ・ 有村架純さん(瀬名役)はまるで命を賭けているかのような演技で、怖いものを見てしまったかのような気分になった。(70歳以上男性)
- ・ 北川景子さん演じる茶々の妖艶な美しさ、そして計算高い女性の嫌な面が見事に演じられていて、お市とは全然違う印象、さすがだ。(40代女性)
- ・ 今まで出てきた「えびすくい」、史上最高級なのは間違いないのですが、なぜかいろいろな感情が生まれ涙しながら見てしまった。(不明)
- ・ 待ちに待った「えびすくい」。笑っているのに独りになると孤独を感じる殿に何度も涙があふれた。(40代女性)

※徳川家臣団が宴会で披露した踊り「えびすくい」の演技についての感想 232件

○オープニング CG

- ・ オープニングのテーマ曲の映像も「兎(うさぎ)と狼(おおかみ)」の追いかけっこになっていて、手が込んでいるところも良かった。(50代女性)
- ・ オープニングCGが、すごく軽いものから黒漆塗りっぽい下地に金まき絵っぽい感じの重厚なものになっていて、家康人生最大の峠越えがとても記念されていてすごく良かった。(不明)
- ・ 新しいオープニング！今までとは違い具現化された家康の目指す世なのかなと思った。富士山を背に人々が行き交う様子は、家康と瀬名の夢見た世界なのでしょうね。(60代女性)

※オープニング CG、タイトルについて好評意見 178件

○イベントについて

▼東海地方限定イベント

- ・ 「どうする家康東海プレミアリレー」にとっても楽しく参加することが出来た。(19歳以下女性)
- ・ 『『どうする家康』 松本潤&家臣団が大集結！ウラ話トークSP』は全国でも放送してほしい。(30代女性)

▼大河ドラマ館(愛知県岡崎市、静岡県静岡市、浜松市)

- ・ 学生時代、日本史は苦手科目でしたがとても面白い。岡崎の大河ドラマ館に足を運ぶほどハマっている。(30代女性)
- ・ 3つの大河ドラマ館全てに行かせてもらった。その土地のすてきな所を自ら発信してくれて楽しみが2倍になった。(50代女性)

※ドラマ館へ出向いた感想 96件

▼大河ドラマ「どうする家康」ファン感謝祭

- ・ これだけの豪華な俳優さんそろい踏みでありながら、NHKホールというキャパではとても当選する気がしませんし、会場の皆さまだけしか楽しめないのはもったいなさすぎる。どうか、生配信、全国放送、DVD化をお願いしたい。(年代不明)

※感謝祭についての意見 114件

○ホームページ、公式SNSでの発信などについて

- ・ 公式SNSをはじめ、キャストの皆さんのSNS発信や、舞台裏の発信も楽しませてもらっている。特に殺陣(たて)の稽古の様子や演じた時の裏話などが見られて、よりドラマが楽しめる。(30代女性)
- ・ SNSを発信していただき大変うれしくなった。こういう貴重な裏話やメイキングの発信、これからも期待している。(40代女性)
- ・ Twitter や Instagram で演者の方や番組がさまざまな情報を公開してくれたり、まとめ動画やインタビュー動画をアップしたりしてくださり、より深く「どうする家康」を楽しむことができるので、とてもうれしい。(19歳以下女性)
- ・ 友達や家族も「どうする家康」を見ているので、LINEスタンプを購入して、早速使った。話題が弾みます。(50代女性)

※SNSなどに要望や感想の同意見 115件

< 厳しい意見 >

- ・ 家康の側室となる女性に関して同性愛者として描かれていたが、昨今のLGBTQ問題を意識した演出ではないか。(70歳以上男性)

※LGBTQ関連の同意見27件

- ・ 回想シーンが多すぎる。大河はじっくり1年かけて人の生き様や感情を描いていくのに、突然現れた人物が何か主張したり、何か起こしてすぐ消えたりするので感情移入できない。(20代女性)

※回想シーンについて同意見 51件

- ・ 旧ジャニーズ事務所の性被害問題。今後、旧ジャニーズのタレントを使わないでほしい。大河ドラマは特に。(60代男性)

※旧ジャニーズ事務所関連への厳しい意見 241件

放送法

第27条

協会は、その業務に関して申出のあった苦情その他の意見については、適切かつ迅速にこれを処理しなければならない。

第39条 第4項

会長は、3箇月に1回以上、自己の職務の執行の状況並びに第27条の苦情その他の意見及びその処理の結果の概要を経営委員会に報告しなければならない。